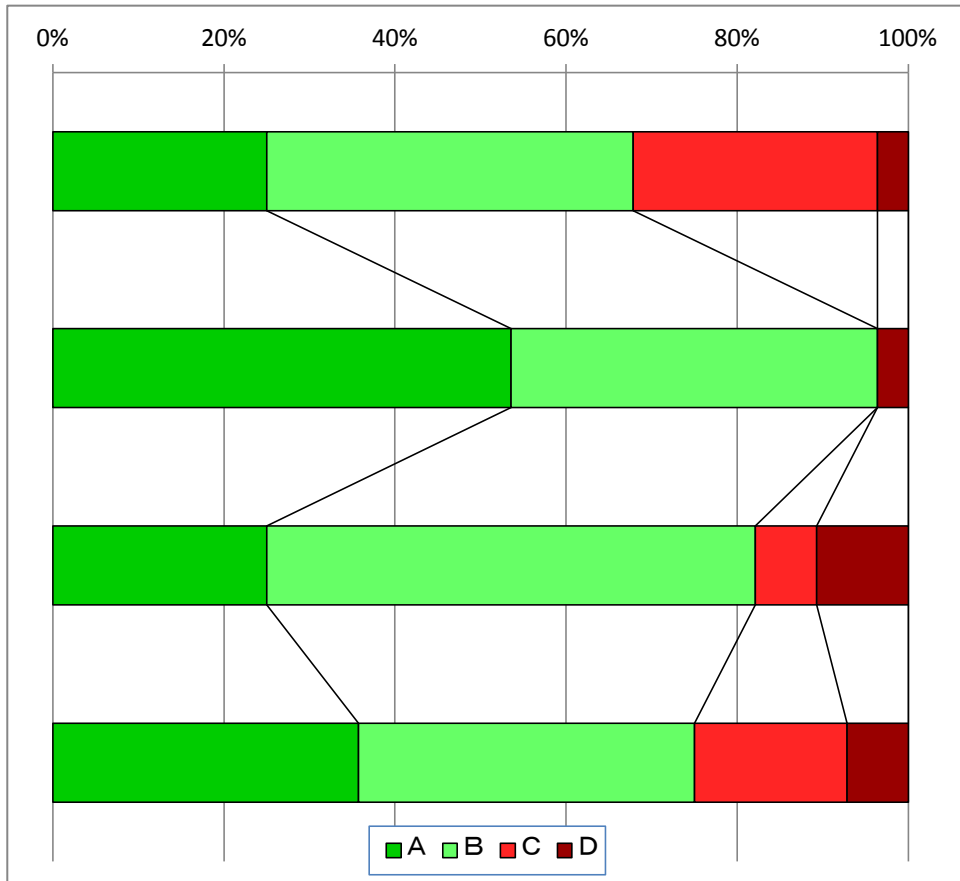


# 市民事業等支援制度アンケート集計結果

## 1 補助を受けて、活動に広がりや深まりが見られたか

評価項目	評価のポイント
1-1 活動参加者について	○ 参加者数の増加が見られたか ○ 参加者層（年齢層や地域分布など）に広がりが見られたか
1-2 事業の実施について	○ 事業実施箇所の広がりが見られたか ○ 活動回数の増加が見られたか ○ 活動内容の高度化が図られたか ○ 事業メニューに広がりや深まりが見られたか
1-3 新たな関係性が構築されているか	○ 補助制度を通じて様々な主体（他団体や基礎自治体など）との関係性が新たに構築されたか
1-4 団体の自立につながっているか	○ 活動内容の広がりや深まりにより、会員数の増加が見られたか

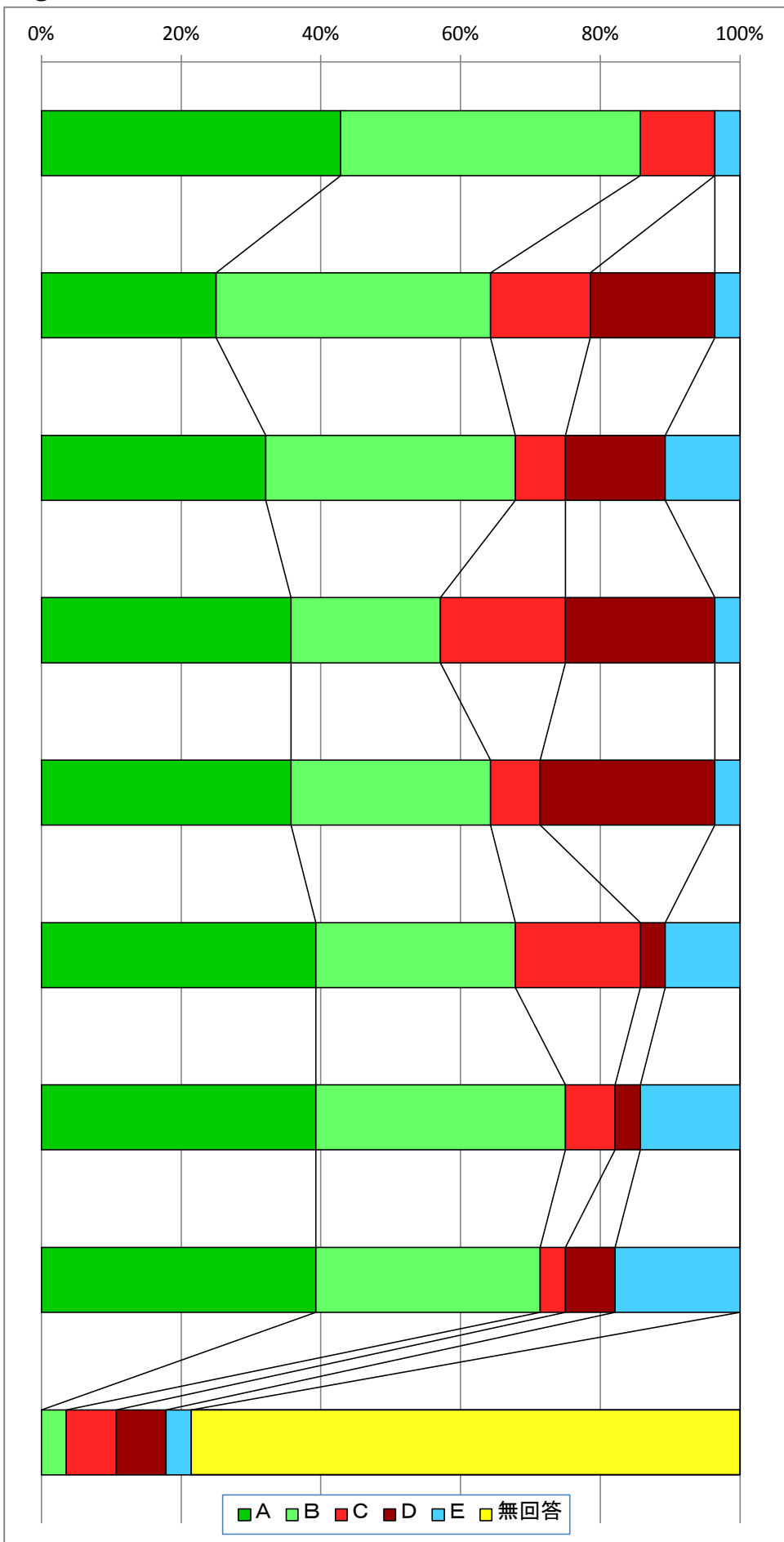


A	B	C	D
7	12	8	1
15	12	0	1
7	16	2	3
10	11	5	2

A…概ね達成できている B…どちらかと言えば達成できている  
C…どちらかと言えば達成できていない D…達成できていない

## 2 市民事業等支援制度は利用しやすい制度となっているか

評価項目	評価のポイント
2-1 申請手続きについて	
2-2 審査方法について	
2-3 補助対象事業について	水源環境の保全・再生に資する事業にもかかわらず、対象外になってしまう事業がないか、等
2-4 補助対象経費について	活動にあたり必要となる経費が補助対象外となっていないか、等
2-5 補助額について	
2-6 補助期間について	
2-7 中間報告について	
2-8 実績報告について	
2-9 その他	

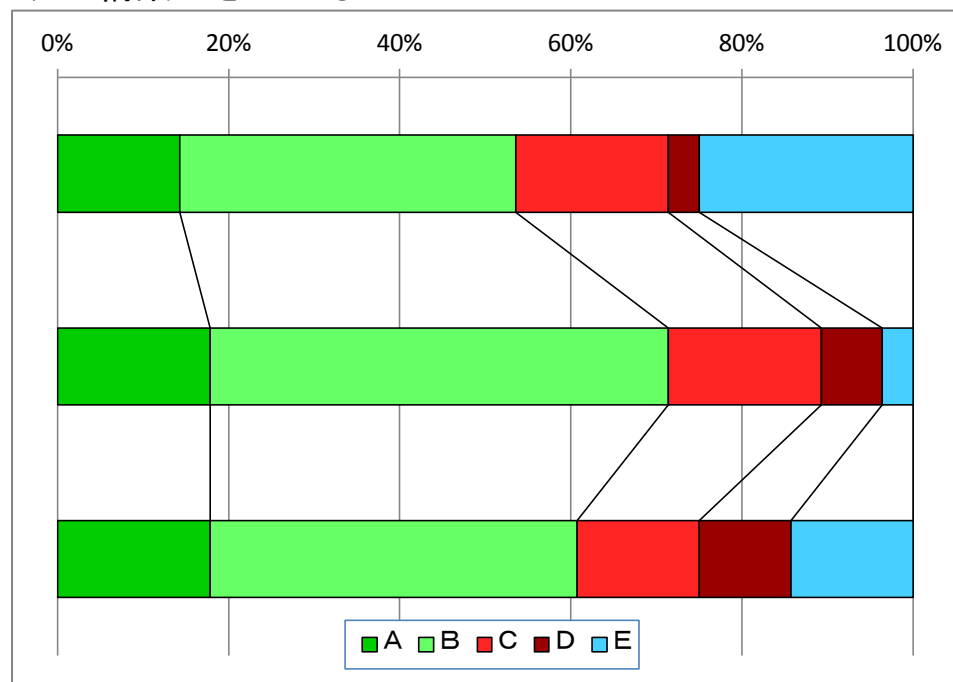


A	B	C	D	E
12	12	3	0	1
7	11	4	5	1
9	10	2	4	3
10	6	5	6	1
10	8	2	7	1
11	8	5	1	3
11	10	2	1	4
11	9	1	2	5
0	1	2	2	1

A…概ね満足できる B…どちらかと言えば満足  
C…どちらかと言えば不満 D…不満 E…回答不能

3 水源環境の保全・再生に係る団体間でのネットワークが構築できているか

評価項目	
3-1	市民事業交流会について
3-2	公開プレゼンテーション（3月開催の2次選考会）について
3-3	県ホームページのイベント情報・活動支援情報等について
3-4	ネットワークの構築やその他の支援として必要なもの

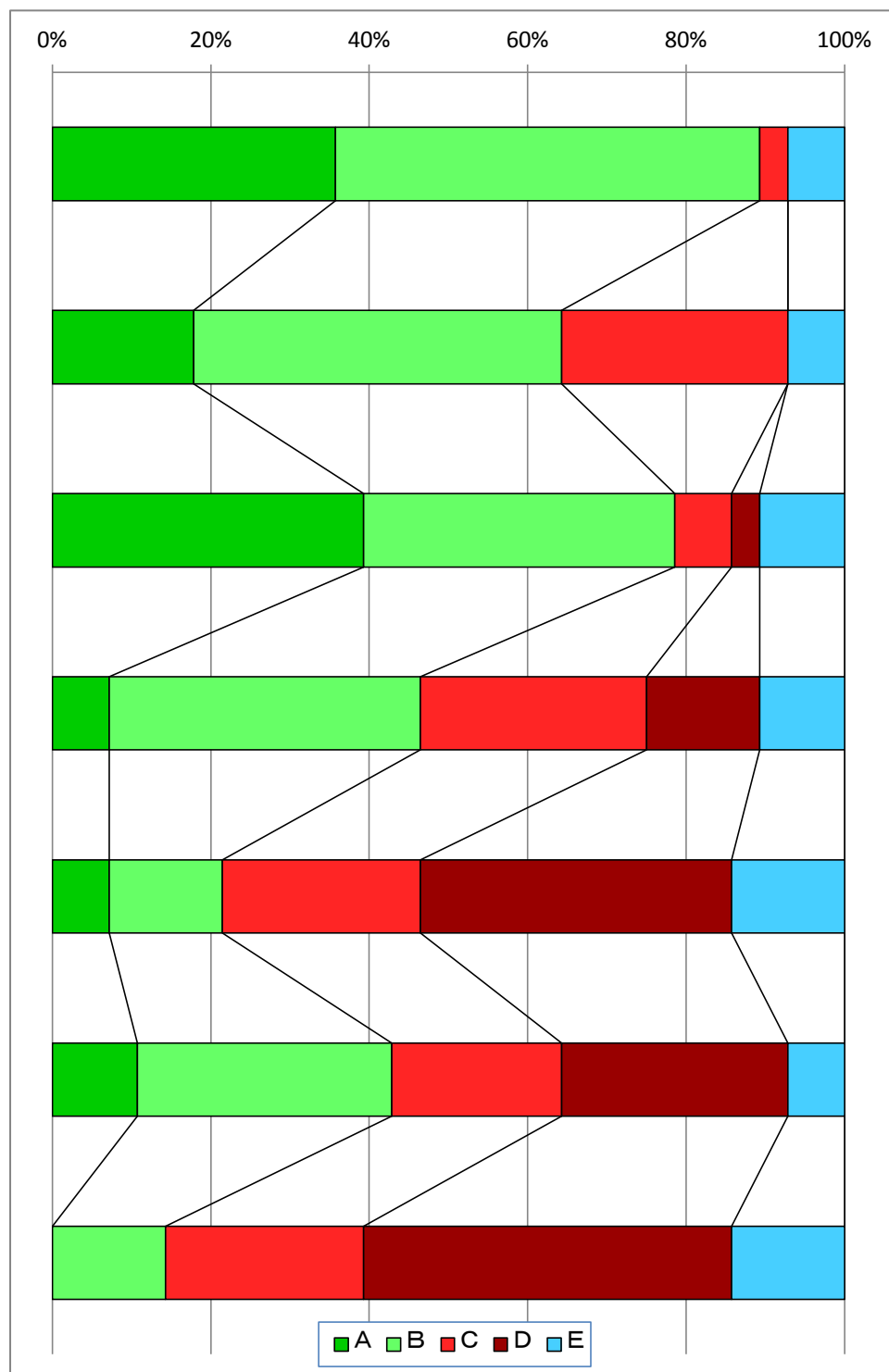


A	B	C	D	E
4	11	5	1	7
5	15	5	2	1
5	12	4	3	4

A…概ね満足できる B…どちらかと言えば満足  
C…どちらかと言えば不満 D…不満 E…回答不能

4 補助期間終了後の活動の見通しは立っているか

評価項目	
4-1	活動が継続的に展開されているか
4-2	補助終了後も、活動を継続・発展させていく見通しは立っているか
4-3	会員等からの会費収入は確保できているか
4-4	製品の販売等による自主財源の確保はできているか
4-5	イベント等を通じた寄付金の確保はできているか
4-6	他の補助金の活用による財源の確保はできているか
4-7	企業のCSR活動等と連携した活動資金の確保はできているか



A	B	C	D	E
10	15	1	0	2
5	13	8	0	2
11	11	2	1	3
2	11	8	4	3
2	4	7	11	4
3	9	6	8	2
0	4	7	13	4

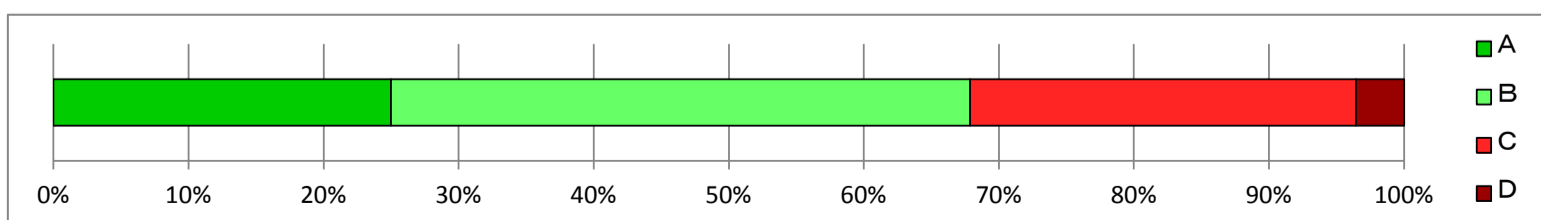
A…概ね満足できる B…どちらかと言えば満足  
C…どちらかと言えば不満 D…不満 E…回答不能

1 補助を受けて、活動に広がりや深まりが見られたか

(1) 活動参加者について

番号	評価	コメント
01	B	本来の森林事業に関心をもつ参加者は森林資源を専攻した僅かな学生のみ。その他の多様な分野（稲作、畑作、ふるさとの暮らし、遊び）に関心を持ち参加するイベント参加者が増えた。参加者は幼児～小学生～高校生～大学生 幼児の父兄は自ら参加意識を持ってやってくる。発展途上のNPOに有り勝ちだが主要メンバーは事業達成に重点をおいてきたため交流の楽しみ方が下手。今後は森林地域の魅力を発掘する遊び心が求められる。
02	B	多くの方に参加していただいているとは思いますが、もう少し増えて欲しいです。PRなどをもっと積極的に行えればと思います。
03	A	私たちの活動に興味を示している人たちは確実に多くなってきています。また問い合わせや実際の依頼も増えてきてはいます。とはいえ、A評価としましたが、まだまだこれからの展開が重要課題です。さまざまなトライとサクセス&エラーの積み重ねが必要だと考えています。
04	C	補助を受けている「のぼり旗」を現場に標示をしてまた、各団体紹介コーナーへ出向いたが1名の新規加入になった。参加年齢が高いために、若い年齢層へのPRを心がけていきたい。
05	B	・当会は森林整備作業が主体のため、調査に参加したいと考える方は少ないことが見込まれていた。開催日数が多いため負担が多いが、調査に本腰を入れるメンバーが次第に決まって来た。 ・外部の協力者（学生など）が時々参加され、活性化につながっている。
06	A	○当会で実施している県内河川で小学生を対象とした生きもの観察会への応募者数・参加者数は、増加が見られ、抽選を行い参加者を制限するほどになりました。 ○当会と神奈川工科大学との連携により、スタッフとして大学院生。学生が参加することにより、従来の小学生とその保護者（30代から40代）に加え、20代への活動の拡大が見られました。地域的には厚木市内の小学生対象の活動に留まっています。
07	B	参加者数の増加 年齢層に変化は見られないが継続することにより参加者数の増加を図りたい。
08	B	活動体制の強化・効率化が目的の補助申請であり、保全活動やイベント活動の円滑かつ迅速な運営が可能となった。従来に比し地域面での若干の広がりが見られた。
09	C	若い層の加入希望者があったものの、継続させることができなかった。 今後は、若い世代にも魅力ある活動内容にしていくことが課題
10	B	支援事業を伝え、より社会性のあるボランティアであることに興味を持って活動にさんかしてもらえ。活動の継続に効果はあると思われる。 ○あまり効果は得られてない。
11	D	現段階でプログラム未実施のため、評価ができない（初回は8/22、23実施予定）
12	C	参加者にはあまり変化が見られなかった。今後、イベント等を通じて参加者を増やしていきたい。
13	C	活動を継続する事で新たな参加者が継続的に増えたが、同時に高齢化で参加出来なくなるメンバーもあり、トータルでは増加とは言えない。
14	B	HPやチラシでの広報活動で参加者を募っており、安定的に継続して活動しているため、毎年新規参加者が増加している。 今年度は女性会員が入会した。
15	B	平成26年度の新入会員は3名（現状会員数27名）。 新規参加者は現役勤務メンバーで平均年齢も少し若返った（71才→70才）。
16	C	まだ補助金を執行していないが、補助金による支出を見込んで参加者を受け入れている
17	B	イベント（水源森林教室）の参加者は横ばいが続いていたが、昨年初めて20名を達成した。毎月の水質調査にも交代で2～4名が継続的に参加している。地道な広報活動と口コミで成果が現れたと思われる。
18	A	神奈川県森林インストラクター13期生がメンバーで立ち上げた団体ですが、補助を受ける事により、知名度が上がり、新規で一般の方が3名ほど参加されました。
19	A	地域の情報誌を通じてのPR活動等により、参加者は増加している。 リタイヤ層から現役世代まで幅は広い
20	A	・新しく立ち上げた「部会活動」への参加者は子供を含め若い年齢層が増加した。 ・私たちが整備している河川敷の利用者（キャンプやバーベキュー、散策等）が増加し、「ゴミ拾い作業」の参加者も増加した。
21	C	参加者数の微増あり。年齢層は変化がない。補助金PRに不足感があるので、ホームページやイベントチラシでの広報機会を増やしたい。
22	C	会員以外へのアプローチが少なかった イベント等の計画を立ててみたい
23	B	補助金で講師を招くことができ、現在手掛けている森づくりへの会員の理解を深めることができ、そのことから興味を持ち、参加者が増えた。
24	B	一般の参加者は森林インストラクターという特殊な会員なので募集していないがインストラクター先輩として13期生の活動場所を紹介し、協力して森林整備活動の裾野を広げた。
25	B	新しい参加者を毎年受け入れ、活動は円滑に行われているが活動人員の定着が難しい。活動内容を見直していく。
26	C	地元森林ボランティア組織（120人余りの会員、年2活動）6月解散総会の折り当団体への勧誘説明を試みたが、フェンソー使用による間伐は敷居が高いと受け取ったようだ 応募者無し 知人へ個別PRでの参加勧誘しかないただ就業中の現役は、休日返上のボランティア参加は困難で年1～2回程度参加でも良い方会員でも積極的に参加する人は限られる
27	A	事業への参加者は、ほぼ定員を満たしており、キャンセル待ちなども発生している。 参加者層も10代から70代と幅広い方々の参加がみられる。参加者の地域も、神奈川県内だけではなく、静岡県や東京都、千葉県などからの参加者がいる。
28	A	地域で活動している「森の愛護会」、・「水辺愛護会」・「自治会・町内会」等との連携に取り組んでいる。 ・・所謂、地域コミュニティ活動への取り組み。

回答	団体数
A	7
B	12
C	8
D	1
計	28

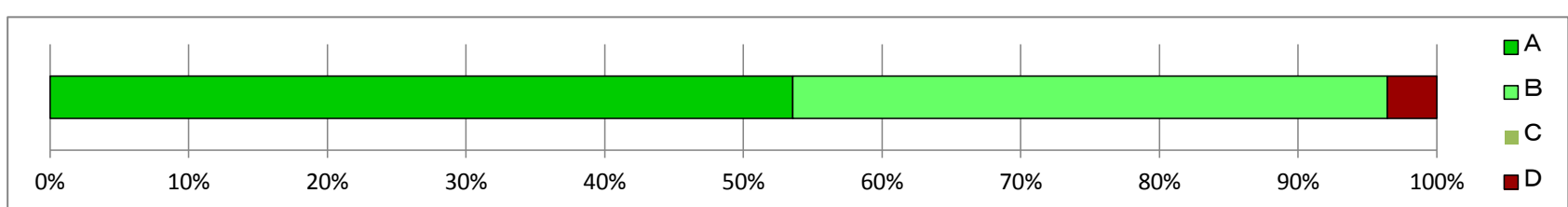


1 補助を受けて、活動に広がりや深まりが見られたか

(2) 事業の実施について

番号	評価	コメント
01	A	市民事業開始当初から実施している寺社林は、強度間伐から混交林化に向けて現在も継続中。地域（当会の田んぼ、畑も含み）共通課題である獣被害対策の実験林として共生の森づくりをすすめている。その間活動回数が増加し、内容の高度化も計られた。行政の協力により獣害対策としての果樹園に隣接するヒノキ林の択伐、枝打ち依頼を受け事業箇所が広まった。
02	B	左記の点は、よくなっていると思います。活動内容には自信を持っておりますのでもっと広がりが出ればと思います。
03	A	まず、活動内容は年をますごとに広がり内容の充実度がアップしています。活動回数も増えてきています。その点では評価はAなのですが、実働部隊をこれからもっと充実させて行かなければ、この先の展開の広がり限界が見えています。実働スタッフの人材確保と育成が次なる課題であると捕えています。
04	A	補助を受けて機械導入を図り作業効率向上へ繋がり作業疲労の軽減になったが面積拡大には至らなかった。機械導入により1回当たり作業面積は拡大している。諸機械導入により高度化が図られました。現在は維持管理を主としているが、今後は新規作業場所を開拓していく考えです。
05	A	・生物の調査は予測のつかないことが多く、因果関係を探りながら当初の予定より広範囲の調査となっている。 ・詳細調査のため、活動回数も増やしている。シカの専門家の指導により、毎回現場を見る目が深まっており、現場の把握のため更なる調査の具体案が出ている。 ・調査を通して植物の知識が格段に向上している。
06	A	○実施箇所は、従来の酒匂川と中津川（相模川支川）から中津川へ集中しました。これは参加者の多少による変更です。 ○今年度、活動回数（観察会）を2回から3回へ増加の検討をしましたが、当会と大学との日程調整が付かず、見送りました。 ○大学の教授等、専門家を指導者として内容の高度化が図られております。 ○魚類の動きを小型カメラで多くの人に投影してみられるようにするなど工夫をしております。
07	B	参加者のリピーター増加により、高度な説明を求められており、会員が勉強すようになった。
08	B	毎年遅延状態にあった下刈り作業が、刈払い機を購入したことにより順調に進捗している。又、機器類や備品類の増強により、活動がより効率化し内容も充実してくることが期待できる。
09	B	補助を受け、チェーンソーを購入したことで従来では時間のかかった大木の伐採が可能となり、作業効率がアップできた。 現在の整備林が終了した後は、新たな活動場所を開拓する方針
10	A	機材購入や燃料など現状の支援は、活動の最低限の支援として、継続をお願いしたい。水源税のわずかな資金で、市民が参加して水源保全に、地域環境の維持に多大なる貢献をしていると確信しています。
11	A	当団体の活動は主に静岡県で展開されていたため、今回の事業を実施できるようになったことは非常に大きな意義がある。海浜環境の絶滅危惧種保全、森林整備活動以外にも、田畑の作業を行なえる予定となっており、活動内容の幅が広がっていると感じている。
12	B	補助を受け刈払機の台数が増えたことにより面積が増え、新たな箇所を開伐することができた。
13	A	チェーンソーなど道具の購入が出来、使用経験の無いメンバーも伐採や玉伐りなどが出来るようになった。
14	B	地元住民に整備実績が評価されており、整備依頼が増加している。
15	A	事業実施箇所は計画通りの場所で活動できているが、広がりには来ていない。 活動回数は計画以上(44回380人日)である。資機材等の導入で作業効率と作業精度の向上が図れている。 竹炭の材料確保方法の改善が見られた（竹材伐倒時期と再利用時期との調整）。
16	D	まだ補助金を執行しておらず、補助金を活用した行事が未実施のため、特に変化はない。活動の充実化は見込まれる。
17	B	回を重ねるごとに工夫を凝らしているが、毎回新しいことを考えるのが大変である。当初に比べるとレベルアップしているが、やや頭打ちの感がある。今後も新しい発見のあるイベントを作っていきたい。
18	A	補助を受ける事により、今までは借りていた道具ではなく、自前での道具となり、借りに行ったり、返却しに行ったりなどの手順がなくなり、非常に効率よくなりました。 なお、自前道具になった事で今年度の活動回数を増やしています。
19	A	補助を受けてチェーンソーと運搬機を購入したことにより、多様な箇所の伐採が可能となり間伐・伐採実施箇所が広がった。 倉庫の購入により、チェーンソーや薪割機などの機器が安全に保管できるようになった。 薪割機の購入で、原木の太さで選別しなくても全ての原木を伐採・活用できるようになり効率よく薪や炭の良質化と増産を実現出来る
20	A	実施箇所は中津川河川敷5.4haの草刈りと整備を毎年実施(範囲固定)していますが、この他に隣接する「河川保全区域の竹林」の整備を拡大しながら進めています。 毎月1回の「全体作業」の他に個人の自主作業を数多く実施してる。 刈払機・チェーンソーの安全講習会修了者が増え技能の高度化が図られて来た。
21	B	チップパー機の導入後に、未着手部の整備が進んだ。これによって活動計画が順調で、作業のモチベーションもアップした。
22	B	例年の下草刈りから始まり徐々に計画を進めているので大幅な広がりはない
23	B	ここ数年かの補助金のおかげで、チルホールやチェーンソーなどを購入することができた。そのことで、活動内容が充実し、よりスピーディな作業ができるようになった。
24	A	補助をうけ各種資機材、物品を購入しそれを使っての間伐、枝打ちの技術修得ができかつ、活動効率がアップした。活動回数は月1回ですが今年度で予定した作業区域が終了予定で、次期作業区域を公園管理者と検討中です。
25	B	補助を受けて作業が確実に実施できた。講習を受けることで会員のスキルアップができた。事業への熱意が向上した。
26	B	4ha以上のエリアを3等分し一個所を2年間伐現在向こう3年間は活動箇所は確定済み 昨年同様年間30回前後予定回数を増やしても参加者は縮小傾向となる 昨年補助金で会としての用具が整ってきたので補助金による講習会も実施しスキル向上が図れた 上記通り来年度以降も計画に則り実施 荒廃林の手入れを継続・推進のみ
27	A	補助を受けたことで、間伐材の加工をスムーズに行うための道具類を整備することができた。そのために、加工の幅を広めたり、高度化を図ることができた。事業の実施箇所については、現在手掛けている場所を、継続的に整備していきたいと考えている。
28	A	土地所有者との契約で事業実施場所は限定されています。 竹林の整備事業＝間伐竹の粉碎―竹炭焼き。 土壌改良実験＝各種野菜の栽培実験。 湧水路の整備＝カワナ・ホタルの定着。 学習支援事業＝ひょうたんの全国大会への出展。（県立三ツ境養護学校；奨励賞受賞）

回答	団体数
A	15
B	12
C	0
D	1
計	28

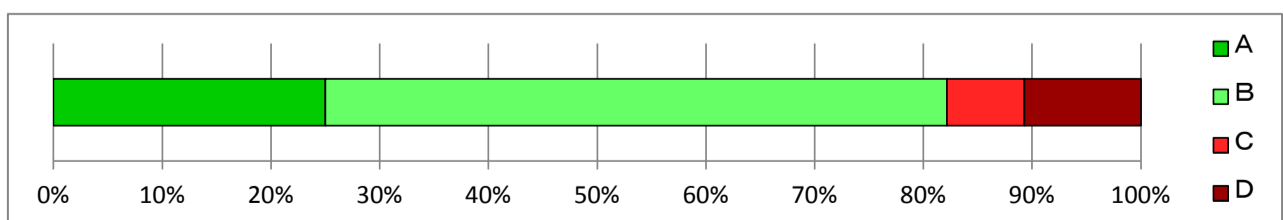


1 補助を受けて、活動に広がりや深まりが見られたか

(3) 新たな関係性が構築されているか

番号	評価	コメント
01	B	民主党政権時に農水省の農山漁村地域力発掘支援補助金に応募、採択され専門家によるワークショップ、先進地視察、事業計画策定、事業実施と進んだが事業仕分けにより頓挫した。しかし行政、研究機関、自治会等の連携も経験した。県民参加の森づくりの域を出ない当補助制度の方向性を改めて問う。
02	B	今年度も新たな団体様との連携がとれそうです。
03	A	誰もかれもというやり方ではなく、活動において重要な連携のありそうな他団体とは積極的なつながりを構築しています。今後さらにこの部分は強化し、必要ある団体とは様々な連携を構築すべきだと認識しています。
04	B	補助団体として活動に対する信頼性が向上し、他の団体との連携がし易くなっている。今後は、他の団体との連携を行い活動のPRと活動内容の充実を図りたい。
05	A	県保全センター、県西合庁、環境省、近隣自治体との関係性が非常に高まっている。調査をしていく上で、また対策に向けて、必要な情報交換をさせていただいている。また関心の深い学術、行政関係者の参加がある。
06	B	〇県の補助を受けた事業であること、また、地元の大学との連携事業であることから、事業への信頼性は高まったと思います。また、神奈川工科大学との関係が構築され、当会主催のセミナーの講師依頼など他の分野での交流の進展がみられています。厚木市教育委員会へは行事の後援を依頼しております。
07	B	一部の他団体との関係性が新たに構築された。
08	C	今回の補助関係での新たな連携は発生していないが、これからの課題として、機会があれば取り組んでいきたい。
09	B	補助を受け、ほだ木教室を開催した事により、公園管理事務所との連携が強まった。これからもこの関係を強化継続していきたい
10	A	活動に対する信頼性は向上している。植樹によるさとやま再生は、5年では手放すほど、苗の成長は無く整備内容による、支援制度が必要と思われる。
11	A	丹沢大山の自然再生のために活動している団体様と連携することが実現できた。
12	D	他団体との交流はほとんどない。今後イベント等で他団体との交流を実施したい。
13	D	当NPOは、地域性の強い活動故に他団体との交流という面では発展性が無かった。
14	A	補助制度により資機材を購入し、森林ボランティアの活動実績ができたことにより、相模原市との協働事業を提案することが可能となった。提案は採択され、現在、協働事業を継続して5年間実施している。
15	B	平成26年度はNPO法人四十八瀬川自然村を訪問し、情報交換を行った。平成27年度は戸塚区舞岡の炭焼き窯を訪問予定。また、二宮町行政を通して大井町の行政に働きかけ、活動範囲の拡大を模索予定。
16	B	補助金を活用した行事を広報したところ、新たな団体から申し込みがあった。
17	D	交流会やプレゼンテーションなどで他団体の方と知り合い、情報交換はできたが、関係性の構築には至っていない。しかし、チャンスは探っていくつもりである。
18	B	かながわトラストみどり財団や公園管理団体とは非常に良好な関係を築けていると思います。今後、市内の他団体とも交流を図りたい。
19	B	補助を受けたことにより、炭の販売先や竹の活用先など他の団体との関係性が構築できた
20	B	河川整備関係団体が少ないため交流は少ないが、「日本の竹ファンクラブ」との共同作業や森林整備団体のイベントへ参加等を実施した。町のサポートセンター登録により、「まちづくりネットワーク」に加入し、町の支援・協働に向けて今後活動を行って行く。
21	B	制度を通じて交流する団体が出来、活動範囲が広がった。他の団体との協働もできた。情報量も多く入るようになった。
22	B	少しずつ他団体との交流を試みている
23	C	補助金制度を通じては、さまざまな主体との関係性のあらたな構築には至っていない。
24	A	森林インストラクターとして各団体に認識されつつあり、ある団体から技術指導、研修の依頼がありました。
25	B	補助を受けることで活動の信頼を得ることができた。他の団体との交流会に参加してよかった。
26	B	立て上げ当初5年前積極的なボランティア活動に否定的な態度が変化し自治体の対応は改善の兆しが見えてきた 但し積極的な支援・支持という意味では未だ遠い
27	B	補助制度を通じて、他団体の様々な取り組みを知ることができた。
28	A	地域の自然環境保全活動に関わるコミュニティ活動（森の愛護会、水辺愛護会、ホテルの里山、自治会・町内会等）

回答	団体数
A	7
B	16
C	2
D	3
計	28

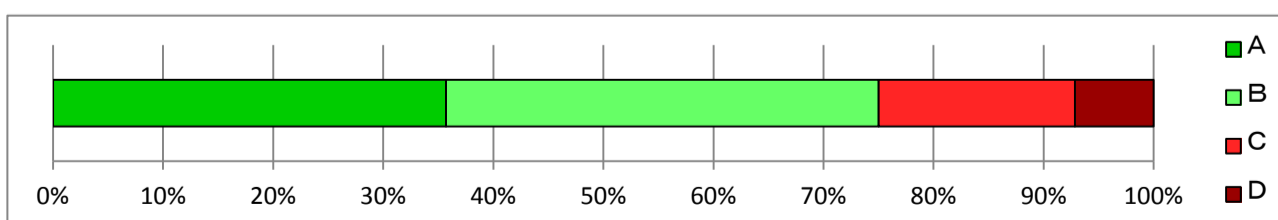


1 補助を受けて、活動に広がりや深まりが見られたか

(4) 団体の自立につながっているか

番号	評価	コメント
01	C	会員数は微増だが大学インターンシップシップ定期的受け入れにより次世代育成の機運が高まり、教え方も徒弟制度の延長から得意分野を発見、開花を目指すようになった。事業収入、委託事業、寄付が伸び始めているが豊かな自主財源とは言えない。夏季のみ開所の市営公共施設の無償利用が進むと若者参加は増加する。
02	B	もっとPRをしていきたいと思います。
03	A	ようやく活動内容等のPRが少しずつ浸透してきているのか、会員数も今年度に入り、現時点でおおむね昨年度同時期の倍（約30名）まで増えてきています。自立のための最大要素である会費収入がさらに増えて行くように活動展開していきます。
04	B	補助団体として活動に対する信頼性が向上してきているが、年数名の新規加入で会員微増です。
05	B	外部の参加者が数名継続している。
06	C	〇当会の活動領域は広範にわたるので、本活動により会員数の増減が同程度あるか不明ですが、正会員数は、微減しています（この数年で正会員は百十数名から10%ほど減少）。
07	A	昨年度新しく4名ほどインストラクターが増えた。
08	B	今迄の実績と認知度が増してきたことにより、年々途切れることなく数名の増加を得ている。
09	C	活動メニューが増加したことから、一般参加者は増えたものの、会員の増加までには至らなかった
10	A	活動メニューの多様化や、補助を受けた事により活動に対する信頼感をましたことなどにより、わずかに会員の増加も見られる。
11	C	参加者増加、会員数の増加に関してはプログラム未実施のため未だわからない。
12	B	補助を受けたことにより活動が充実し会員の活動がスムーズになった。
13	B	団体としては炭焼き以外にも多様な活動をしているため、単純に切り分けは出来ないが、活動が根付くことにより、団体の魅力を上げる一役は担っていると感じている。
14	A	最初にチェーンソー等の資機材を購入することができたため、団体が自立することができた。
15	A	地域住民から当会の活動内容が評価され、耕作放棄地になる可能性のある畑の管理を請け負うケースが増加（稲作田圃、柿果樹園、銀杏畑等）。更に、近隣の成長し過ぎた庭木樹木や竹林の間伐依頼が増加傾向にある。
16	D	まだ補助金を執行しておらず、補助金を活用した行事が未実施のため、特に変化はない。
17	A	会自体の会員数は当初の5名から10名に増えた。これからも会員増のための声掛けをしていく。
18	A	補助を受ける事により、一般の方に参加していただき、会員数の増加につながっております。
19	B	補助を受けて炭焼きなどの活動内容が充実し、回数も増加したことにより、活動に興味を持ってくれる人が増え、会員が増加した
20	A	会員増加対策として「田んぼ部会」と「中津川とふれあう会」を立ち上げ、本来の「整備活動」とは別に子供も含めて参加出来る活動を実施した事により会員が倍増（H26年度で18人から38人に増加、現在41人）出来ました。
21	D	事業的に新メニューを増やしているが、年齢的に退会者が増えている。しかし今年度になって、ここ数年来無かったペースで新会員申込が増えてきている。（団塊世代がやっとなってきた）
22	B	少しずつ会員が増えている
23	B	講師を招いての森づくりの体験から、活動の広がりや会員数の増加が見られた。
24	B	活動内容は充実してきたが、会員の参加する人数が固定化してきたので、もっとたくさん参加してもらう工夫を考えております。
25	B	補助を受けることで活動の信頼を得ることができた少しずつ新たな活動人員を増やすことができた。
26	C	年齢構成が高く新会員が増えても鬼籍に入る会員・自己都合退会者もあるためほとんど増減なし
27	A	補助を受けたことにより、活動を安定的に継続することができ、会員も増加傾向にある
28	A	地域コミュニティ活動の思想が地域住民の間に芽生えつつある。

回答	団体数
A	10
B	11
C	5
D	2
計	28

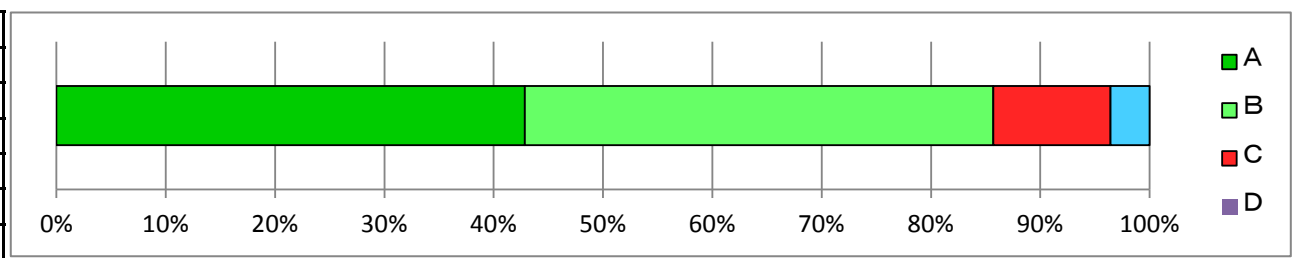


2 市民事業等支援制度は利用しやすい制度となっているか

(1) 申請手続きについて

番号	評価	コメント
01	A	手続きは民間助成金と同様、申請に問題はない。
02	B	—
03	A	申請手続きももう少し簡略化できたりする部分もありそうな気もしますが、おおむね現行のようなスタイルにならざるを得ないと考えています。
04	B	第8項様式の事業収支予算書で資機材申請も同書面に一括計上可能に改善を望みます。
05	E	申請期間が短く、理解できないまま申請書を作成した。分かりにくいという事はあるかもしれない。特にどの部門に申請したらいいか分からなかった。
06	B	申請手続きに係る書類作成については、最初は不慣れこともあり、時間がかかり不備も多くありましたが、2年目以降は、作成に多くの手間と時間を費やすような状況からようやく解放されました。
07	C	非常に大変ですのでもっと簡略できないか？
08	C	各申請書での数値の整合性が理解し切れず、担当者の適切な指導で作業できたが、簡単ではなかった。
09	B	手引き書が整備されており、これに基づいて行えばよいのでやりやすい。 又、申請に際しきちんと指導もいただけるので大変助かった
10	A	適正と思います。
11	B	初めて実施する事業、かつ初めての申請であったので、全体でどの程度の事業費がかかるのか不透明な部分もあり、見積もりにくかった。
12	B	申請の時期が少し早すぎると思う。
13	B	特になし
14	A	申請手続きは概ね妥当だと思う。
15	A	補助金の性格上妥当と考える。
16	A	—
17	A	申請書類は少ないに越したことは無いが、最低限必要な書類になっていると思う。
18	A	非常にわかりやすくていいと思います。
19	B	申請・認可必要な項目と思う
20	A	「事業収支予算書」の「費目」に『安全対策費』を新設して安全講習会等の費用を「事務費」から分離したほうが良いと思われます。
21	B	なし
22	B	特にありません
23	B	—
24	A	様式等は実施の手引があるので問題はなく、不明な点は担当者に指導して頂いている。
25	B	燃料費予算の規定、算出が細かい。
26	C	次回以降の申請には慣れてくるが、新規申請時は内容理解が進まず取り組み難いと感じられた
27	A	各様式とも精査されており、大変書きやすいと思う
28	A	他の申請書作成と同じ程度です。

回答	団体数
A	12
B	12
C	3
D	0
E	1
計	28

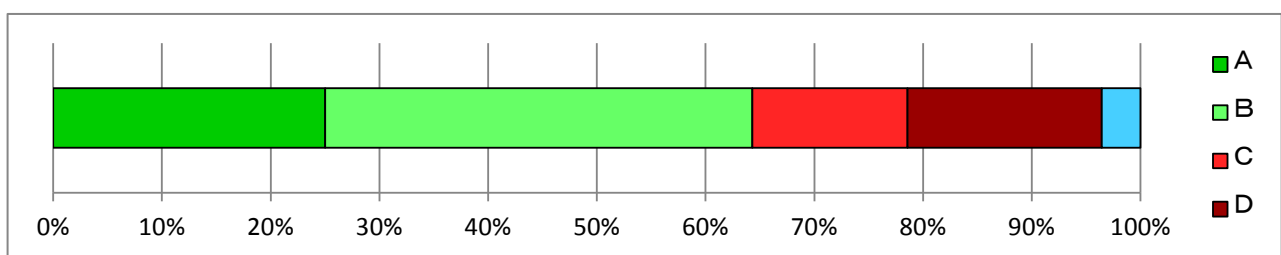


2 市民事業等支援制度は利用しやすい制度となっているか

(2) 審査方法について

番号	評価	コメント
01	D	審査員の氏名・略歴を公開すべき。プレゼンによる審査員のNPOに対する態度が非礼、税金泥棒と言わんばかりで失望する。専門分野からの質問に留めるべき。審査員は現場を踏むべき。
02	B	—
03	D	水源環境保全課のしきりであるにもかかわらず、県職員の方たちの意見や判断が審査に大きく反映されていないというのはいかがなものか。審査に審査員判断の偏りが出ているように思います。
04	B	発表時間の短いのに一日の拘束は耐えられないが他団体の発表は参考になる
05	E	初めてのため、よくわからない。
06	B	確かに、発表時間の割に拘束時間が長いですが、他の団体の活動（特に「水」分野の当会にとっての「森」分野）の報告内容は、興味深く、参考になるところがあります。
07	B	審査内容（項目）がよく判らない。
08	B	発表に当たって、活動内容を客観的に改めて見直す良い機会となった。
09	B	公開プレゼンテーションは他の申請団体の事業内容もわかるので良いと思います
10	D	公開プレにおける採決が、部門別の対応ですが、ボランティア活動での内容が補助対象にそぐわない場合等は、支援できる活動へのサポートなど、支援が可能となる指導をすべきと思う。
11	A	プレゼンテーションで活動の特色などをPR出来て良かった。もう少し1団体あたりの発表時間が長ければ、より濃い内容で表現できたと感じた。
12	B	できれば区分毎に半日位で実施してほしい。
13	D	選考会が横浜というのは、特に県西、県北地域では行くのが大変である。森林保全活動に携わる団体が集まりやすい場所となれば、以前の様に厚木あたりが適当ではないかと考える。 選考会については、確かに税金をそこに注ぐ訳であるから審査員の厳しいコメントが出るのも当然かとは思いますが、林業が衰退していく中でもボランティアで森を守ろうとする志のある人たちの集まる場なのだから、もう少しポジティブな場作りが必要ではないかと感じている。
14	A	審査方法は概ね妥当だと思う。
15	B	平成26年度の報告では竹林の伐採本数に関する指摘を頂きましたが、作業実態を伝えきれず（審査される方の経験知と当会の作業実態が噛み合わないのが主因か？）、本数等実績の理解が得られなかった。 平成27年度ではチェーンソー・刈払機の実績報告が割愛されているが、説明に苦労することが無いので助かる。
16	C	丸一日かけて全員の発表を聞く必要があるのか、疑問を感じました。
17	B	プレゼンテーション参加は負担になっている。水源地域で活動する団体が多いので、横浜ではなく厚木や足柄上地域などを考えていただきたい。補助金を年間100万円もらう団体と数万円しかもらわない団体が同じ審査方法であるのは違和感を覚える。
18	A	非常にわかりやすくいいと思います。
19	A	良い方法と思う
20	C	審査に当たっては、単に机上の想定だけでなく現地の作業状況や整備状況を、視察・確認等により『活動の実態・内容』を十分把握した上で実施して欲しい。
21	C	プレゼン開催の運営時間の短縮が望まれる。例えば全対象数の発表でなく、発表数を限定して半日に抑えるなど。
22	B	他団体の発表は参考になる
23	B	—
24	A	公開プレゼンテーションの発表時間が短い参加団体が多数なのでいたしかたない。
25	D	一日拘束されることが負担が大きい。
26	C	書類作りに相当の精力を必要するが、現地調査による審査も取り入れ負担軽減を図っていただきたい
27	A	公開プレゼンテーションの準備により、活動の方向性を見つめなおす機会につながっている。また会場も中区という利便性の高い場所などで助かっている
28	A	審査員各位のご尽力に感謝申し上げます。

回答	団体数
A	7
B	11
C	4
D	5
E	1
計	28



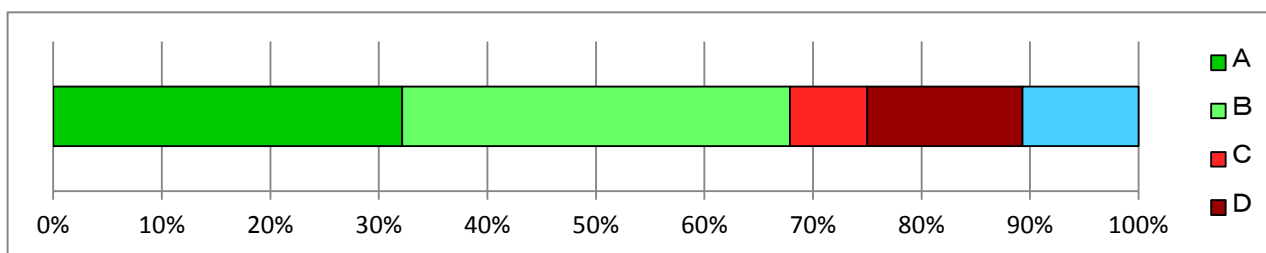


2 市民事業等支援制度は利用しやすい制度となっているか

(3) 補助対象事業について

番号	評価	コメント
01	D	間伐材の搬出と利用の事業内容について明記されていない。木材利用に乾燥のための貯木場は当たり前。土場に搬出しても有益な貯木・乾燥がなされなければ有効活用できない。二酸化炭素の固定化が図れない。貯木場賃借に関する地代、建設費、製材機は対象になっているのか。県の求める市民事業とは参加者数、日数だけなのか。
02	A	—
03	D	水源環境の保全や再生は、単に森の保全だけではないはず。補助の対象が森の保全や再生に補助のウエイトが偏っているように感じます。水道水として使っている水は、水源が中流や下流域にあり、水源環境という広い見地から、川に流れるゴミに対する事業や生活排水の流入に対する事業についても、もっと積極的な補助が行なわれるべきだと考えています。
04	A	現行の区分内容で良いと考えている。
05	E	初めてのため、よくわからない。
06	B	直接的な河川での観察会ではなく、水資源や水質調査など学校や自治体での小学生向けの出前事業や市民対象の教室も補助対象事業としていただくと当会にとっては、ありがたいです。
07	B	—
08	B	特に問題ない。
09	B	概ね妥当と思います
10	C	雑木林の整備における手段として、50年以上経過したコナラなどは、間伐後萌芽更新がなされない事実となっています。里山再生における利活用を図る以上に、萌芽更新が可能な輪令での間伐放置整備を進めさせていただきたい《無萌芽による再植樹苗の成長管理の下草刈りは7, 8年かかるが自然萌芽更新は3年の草刈りで里山は蘇る。》
11	B	当団体では特に問題はなかった。
12	A	—
13	E	—
14	A	特になし。
15	C	当会の事業は「もりみず市民事業」の目指す事業内容を行っているが、当会の立地場所が補助対象外の場所にあるので、対象地域まで出てゆき事業を行っている。対象地域の拡張を検討願いたい。
16	A	—
17	A	よく審議していただいている。
18	A	非常にわかりやすくいいと思います。対象外になってしまう事業はございません。
19	A	特に有りません
20	E	特になし
21	B	なし
22	B	森林再生で申請しているが、里地の環境整備は対象にはならないか
23	B	—
24	B	補助対象事業の区域と区域以外の区別がわからない。具体的に二宮
25	D	谷戸の保全活動全般が谷戸の水源保全であり、神奈川県の水源保全に結びつく活動であるが、田んぼ、畑作業については対象外になってしまう。
26	B	なし
27	D	水源環境の保全というと、県西部の山間地域に限られてしまうが、県内の河川を構成する泗水域も、保全対象地域として考慮してほしい。
28	A	普及啓発・教育事業について

回答	団体数
A	9
B	10
C	2
D	4
E	3
計	28

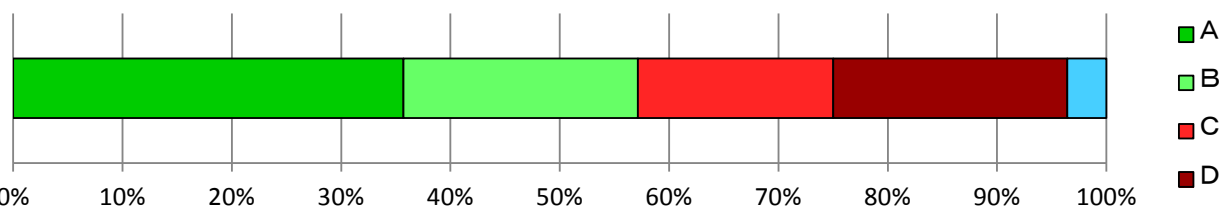


2 市民事業等支援制度は利用しやすい制度となっているか

(4) 補助対象経費について

番号	評価	コメント
01	D	活動を継続的、発展的に行うためにメンバーの有償制を考慮するときに来ている。総事業費の占める割合を決めている大手民間団体もある。ボランティアは無償と言う非常識は排除して欲しい。
02	A	—
03	C	必要な機材として、お金をやりくりして購入したものが、やや高額だったために資機材の枠にも入れられず、経費としても認められないというのは理解に苦しむ要素です。
04	D	例えば、「プレゼンテーション」と「もり・みずカフェ」への参加団体要員(5名)限度を設定し「食事代」の支給可能にしていきたい。現在は自主財源で賄っている
05	E	初めてのため、よくわからない。
06	C	現在、外部講師には、謝礼としての支出が認められておりますが、内部のスタッフは、交通費は認められるものの他の経費への支出が認められておりません。金額の上限を決めて(例：謝金1日当たり〇〇円以下)認めて頂けると助かります。
07	B	NPO法人によるボランティア活動でも人件費を認め、ある程度の生活が出来るようにする。継続することにより力が付いてくると考えます。
08	B	特に問題ない。
09	C	スタッフ人件費、交通費について1/2程度でも認めていただくと事業がやりやすくなります
10	D	国の制度における里山整備では、労務費《人件費》を対象としています、この制度自体も、団塊の世代が、戦力から外れたとき、用を成さないの目に見えています。地域環境整備の観点を含め、水源の森エリアの自治会等の環境整備なども補助対象事業とあわせ、検討願いたい。軽トラックの管理費を望む。 ・地域市民が活動に関わるのがベスト、公共交通機関が利用ベースならタクシー利用で作業現場に行くのはOK?・個人負担の軽減を取り入れてほしい。
11	D	普及啓発活動が、申請額の1/2しか助成されないこと。 また、PCやプロジェクターは活動の際必要となるので、補助対象としてほしかった。
12	A	—
13	B	お弁当くらいは認めていただいても良いのではと思う。
14	D	チェーンソー等の購入に際し、会員数による制限があることは納得できない。 実績報告に係る作業に時間がかかるため、事業管理費も補助対象経費に算入してもらいたい。
15	A	補助金の性格上妥当と考える。
16	A	非常にわかりやすくいいと思います。 対象外になってしまう事業はございません。
17	A	必要と思っていた経費が認められなかったことは無い。
18	A	—
19	A	特に有りません
20	C	ボランティア活動のため作業手当・交通費の支給(出張費を除く)は一切無い、資機材も不足分は個人所有物を使用しており、多くの会員には遠方より来て労働力の提供を受けているため、せめて「弁当と水またはお茶」程度は提供したい、このため自主財源で実施している、以前のように補助対象として欲しい。(何も提供しないと「会員離れ」が危惧される)
21	B	なし
22	C	活動するにあたって昼食代は団体が支払っているが、対象にして欲しい
23	B	—
24	B	定着部門で資機材購入(高度な技術や資格を持っていて)に制限がある理由がわからない。
25	D	講師、スタッフへの謝金が対象外のためボランティア活動になっている。
26	A	なし
27	A	概ね満足している
28	A	普及啓発・教育事業について

回答	団体数
A	10
B	6
C	5
D	6
E	1
計	28

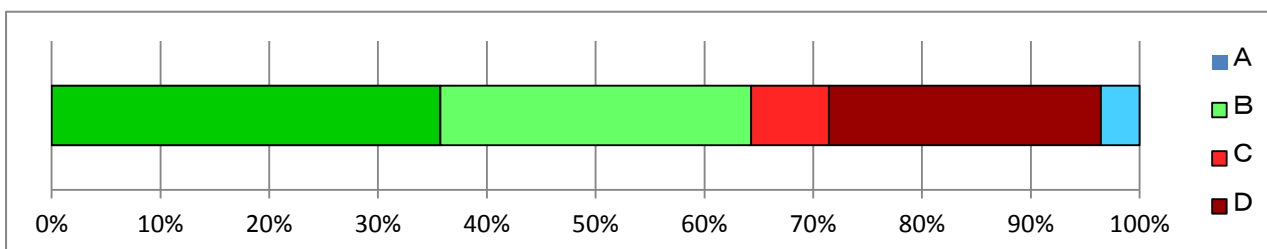


2 市民事業等支援制度は利用しやすい制度となっているか

(5) 補助額について

番号	評価	コメント
01	D	神奈川県独自の水源環境税を導入したのであるから補助率100パーセントを断行し県民参加を推進すべき。
02	A	—
03	D	普及啓発・教育事業の補助額の上限が他の事業とは違って定着でも20万、高度化支援でも40万に絞られている理由がわかりません。補助率は1/2以内としても、事業内容によって上限はどちらも他の事業と同額にすべきでないかと考えています。
04	A	現行制度で良いと思っている。
05	C	補助率が80%となっており、会からの支出が多くつらい。
06	A	当会の現在の教育・啓発事業である「生きもの観察会」などでは、現在の補助額で十分でしょう。ただし、具体的に水を浄化するとか定期的な水質調査を実施したいグループにとっては、補助額が不足すると思います。
07	B	—
08	B	現在の当会活動に見合った形での申請となるため妥当であると思うが、資機材については額も大きいこともあり自主財源の乏しい状態では、十分な手当が出来ないので全額補助にしてほしい。
09	A	概ね妥当と思います
10	D	活動団体の整備面積の上限枠を増やし増額を望む。
11	D	補助額が84,000円では、プログラム実施時の参加者数が少ないと、経理上赤字になりかねないので、せめて半額の122,000円は補助してほしい。
12	C	高度化は8/10で会からの負担が出てしまう。
13	E	特になし
14	B	補助額は概ね妥当だと思う。
15	A	資機材等の購入が大きな目的だから、妥当な額と考える。
16	A	—
17	B	普及啓発部門では補助率が50%であるが、ありがたいと思っている。しかし、最初は100%で年を追うごとに補助率を下げていくというやり方もあると思う。
18	A	事業内容的に妥当と思います。
19	A	当会の規模ではちょうど妥当と思う
20	B	「資機材費」の累計限度額を、最大5年間のため50万円(平均年10万円)から100万円(平均年20万円)への変更が妥当と思われる。
21	B	補助金だけでなく自主財源となるべきものを、常に模索したり、事業化している。
22	B	補助上限額は多いに越したことはないが、当会の里山整備活動には足りている
23	B	—
24	A	特に金額に関しては問題ない。
25	D	上記のように人件費への補助が不足している。
26	D	実費の100%補助が必要 元々活動目的は、手入れの行き届かない人工林の荒廃を少しでも軽減することであるが、間伐材の有効利用などの活動で自立を、としているものの、その分本来の目的達成にブレーキを掛けること必定至る所放置林の惨状を見るにつけ、間伐急務の現状は変わらない
27	A	概ね満足している
28	D	全額を補助額にしていきたい。

回答	団体数
A	10
B	8
C	2
D	7
E	1
計	28

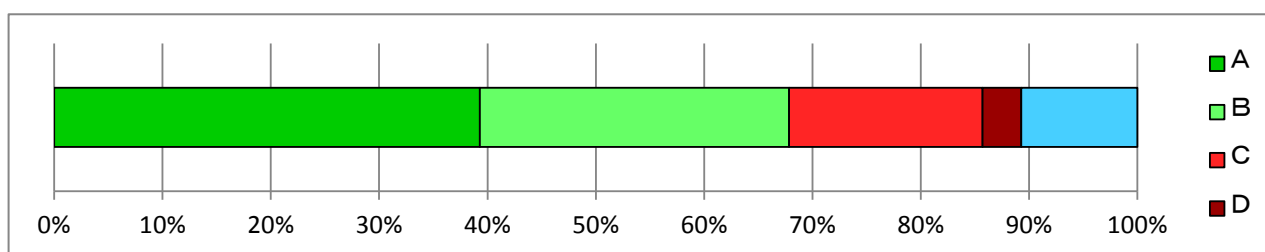


2 市民事業等支援制度は利用しやすい制度となっているか

(6) 補助期間について

番号	評価	コメント
01	C	年度ぎりぎりまで活動し報告書提出すると次年度払いになり未収入金扱いになってしま う。3月が森林活動の最後であり、年度内の追い込み時期である。 年度内に補助金を獲得するには概算払いしかないが交通費の年度内支払が困難。
02	A	—
03	C	補助期間がひとつの事業に対してなのか、補助を受けている団体に対してなのかがわかり にくいです。
04	A	県民の税金での事業であり期間設定は理解できます。
05	E	初めてのため、よくわからない。
06	A	補助期間は、長い方がありがたいですが、その期間中に自主財源を考えるべきだとい うのが正論です。
07	B	—
08	B	現状で良い。
09	B	概ね妥当と思います
10	A	—
11	B	初めて実施する活動の場合は、補助期間が単年であることの方が色々と整理が付きやす いと今のところ感じている。
12	A	—
13	E	特になし
14	A	特になし。
15	B	補助期間限定は厳しい面はあるが、やむを得ないと考える。
16	A	—
17	A	5年間いただければありがたいと思う。
18	A	妥当と思いますが、何年か先に補助を再び受けれると助かります。
19	A	期間は妥当と思う
20	C	現在補助金を受けている事業の大部分が「継続実施が必要」で、活動を停止すると以前 の「悪環境」に戻ってしまいます、他の補助金も期間限定がほとんどです、「水源環境保 全」には継続した補助が必要です。 * 現在の活動と同等の事業を行政で実施した場合は補助金の何倍もの費用が必要となりま す。
21	B	なし
22	B	里山整備に長く携わっていますが、この事業は休んでしまうと、元の状態に戻ってしまう ので長く続けて欲しい
23	B	—
24	A	年度単位で区切りが良い。
25	E	活動は毎年見直しているのが適当である。
26	D	計画によって2~3年も選択可能とし、半期ごとの抜き打ち現地調査で進捗状況を審査し 補助金継続可否を判断する方法もある、と思える 一年ごとに切断されるため継続的運用に支障が出る場合がある
27	C	補助期間を設けることに越したことはないが、自立を促されるたびに心労が重なり、プ レッシャーを感じている。ボランティアや会員など、流動的な担い手に頼らざる負えない 活動への不安も理解してほしい
28	C	1年単年度から複数年にしていきたい。

回答	団体数
A	11
B	8
C	5
D	1
E	3
計	28

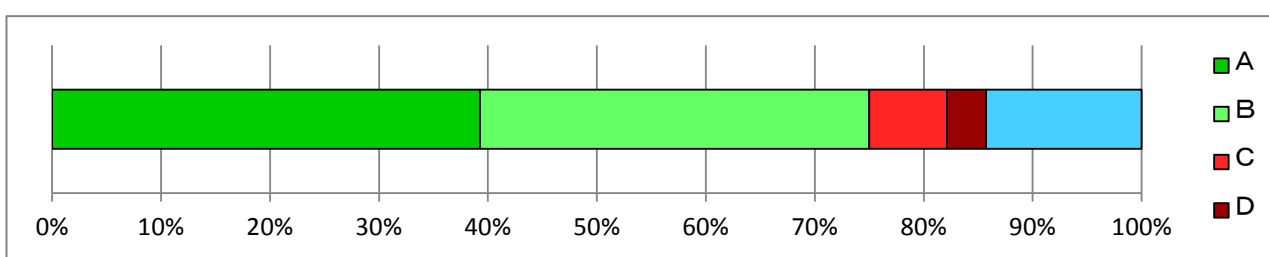


2 市民事業等支援制度は利用しやすい制度となっているか

(7) 中間報告について

番号	評価	コメント
01	A	問題ない
02	A	—
03	A	提出書類に関してはこのような感じだと思います。中間報告の場でもやるかは別として、こういう事業をやりましたとか、後期はこんなことを予定していますなど、一般に対してのプレゼンテーションがあってもいいのではないかと考えています。
04	C	中間報告書の簡素化を図って頂きたい。例えば、中間報告書に領収書を添付しているから実績(年報告)報告書には後半の領収書添付に改善をご検討願います。
05	B	調査の中間報告書を関係機関へ配布することを通じて、行政に現場認識を深めて頂く事が出来るので、力を入れていきたい。
06	B	補助金対象の活動時期が夏休みであり、そのあと、かなりあわただしく中間報告することになります。制度的としては、やむ得ないと考えています。
07	B	—
08	E	実施状況をチェック、確認するよい機会と思う。
09	B	概ね妥当と思います
10	C	事業変更がない限り不要。
11	E	未実施のため回答不能
12	A	—
13	E	特になし
14	B	中間報告は必要だと思う。
15	A	補助金の性格上報告事項は妥当と考える。平成27年度はチェンソー・刈払機の稼働報告を割愛されたことは事務負担の軽減になる。
16	E	まだ経験がありません。
17	A	1年分を一度にまとめようとするは大変であるが、半年分をまとめておけば後々役に立つ。
18	A	補助を受けるにあたり、報告すべきと思います。
19	B	中間期までの実績の取り纏めとして適当と思う
20	A	現行通りで良いと思います。
21	B	なし
22	B	事務処理が煩雑で大変だが、活動を振り返り見直すのに有効である
23	B	—
24	A	中間報告は年度全般の活動実績と予算執行を把握する良い機会になっている。
25	B	中間決算もあるため、ちょうどよい。
26	D	下記の“実績報告”に同じ
27	A	中間報告書は事務処理の負担が小さくないが、年度前半の実績や予算執行の状況を把握する良い機会になっている
28	A	P-D-C-Aのデミングサークルの必須要件。

回答	団体数
A	11
B	10
C	2
D	1
E	4
計	28

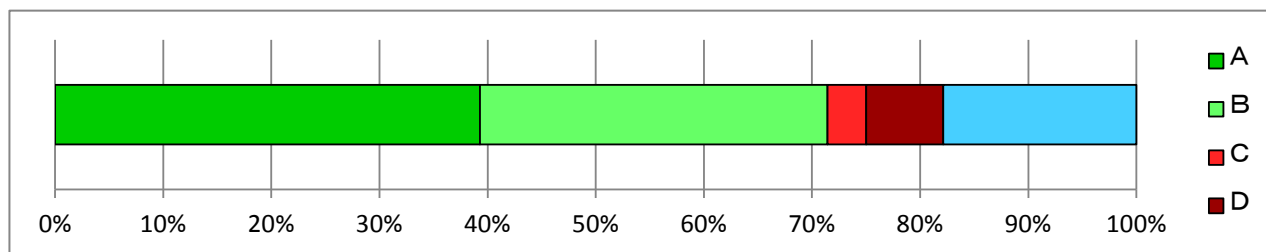


2 市民事業等支援制度は利用しやすい制度となっているか

(8) 実績報告について

番号	評価	コメント
01	A	問題ない
02	B	—
03	A	提出書類に関してはこのような感じだと思います。中間報告の場ではないとしても、補助金を受けてこのような事業をやりましたなど、一般に対しての事業報告プレゼンテーションがあってもいいのではないかと考えています。
04	A	現行制度で良いと思っている。
05	E	初めてのため、よくわからない。
06	A	現在のシステムで問題ないと思います。
07	B	—
08	E	初めての作業となりコメントできないが、所定の方法で行います。
09	B	概ね妥当と思います。初めて報告書を作成する際は不慣れのため、丁寧に指導いただけたことが良かった
10	B	—
11	E	未実施のため回答不能
12	A	—
13	E	特になし
14	B	実績報告は概ね妥当だと思う。
15	A	補助金の性格上報告事項は妥当と考える。
16	E	まだ経験がありません。
17	A	現行の方法で問題ない。
18	A	補助を受けるにあたり、報告すべきと思います。
19	B	交通費の実費相当額が個人個人の算出が手間を要し、その事務負担が大きい。実費をある程度（200円単位など）の区切りで仕切れるようになると有り難い
20	A	現行通りで良いと思います。
21	B	なし
22	B	事務処理が煩雑で負担が大きいが致し方ないと思う
23	B	—
24	A	作業終了後（第4土曜）に開始して4月に全般に終了し4月末に振り込んで頂ければ理想的です。
25	C	交通費の報告は作業がとても細かく大変である。
26	D	書面ではなく電子情報としていただきたい 一連の流れで書類を準備するため、年間を通して全て一担当に極端な負担が掛かるため快く受ける会員はいない せめて電子情報とし極力負担軽減を希望
27	D	中間報告書により、年度前半の実績や必要書類などの提出を行っているが、実施報告においても再提出を求められるなど、作業の重複や資源の無駄へつながっていると感じる
28	A	P-D-C-Aのデミングサークルの必須要件。

回答	団体数
A	11
B	9
C	1
D	2
E	5
計	28

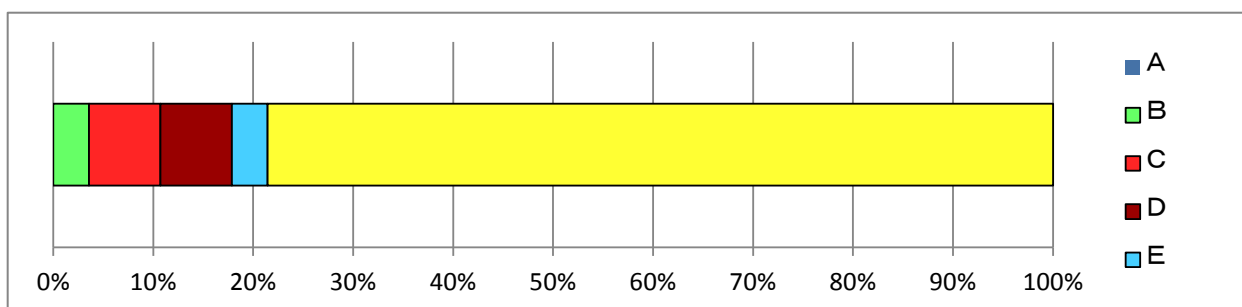


2 市民事業等支援制度は利用しやすい制度となっているか

(9) その他

番号	評価	コメント
01	C	税による補助事業であるから領収書添付による年度末払いは理解しているが次年度立ち上げ資金は民間助成金に頼るしかない。事業資金小規模団体の参加が増加しない理由の一因でもある。
02	—	—
03	—	特にありません。
04	—	特にありません
05	—	—
06	—	—
07	B	—
08	—	—
09	C	(普及啓発・教育事業について) 例えば2年目以降は補助率を60%~70%程度に引き上げていただくと事業がやりやすくなります
10	—	—
11	E	特になし
12	—	—
13	—	—
14	—	特になし。
15	—	特になし
16	—	—
17	—	なし
18	—	—
19	—	—
20	D	刈払機等の「会員数による台数算定」については、「作業実態による台数算定」として欲しい、当クラブのように「草刈り作業」が主の団体は、ほとんどの作業者に刈払機が必要であり、他の団体とは必要台数が違うため。
21	—	—
22	—	—
23	—	—
24	—	—
25	—	—
26	D	スタートから一年後の支給は余りに遅い たとえ経費扱いであってもチリも積もれば山、借入金で資金繰りを図らなければ活動できない 四半期ごとの精算も検討していただきたい
27	—	—
28	—	実践活動をタテ割り型の型から脱皮させて、複数の団体、自治会・町内会、子ども会等が連携したコミュニティ活動に発展させる起爆剤に育つことを記念しています。

回答	団体数
A	0
B	1
C	2
D	2
E	1
無回答	22
計	28

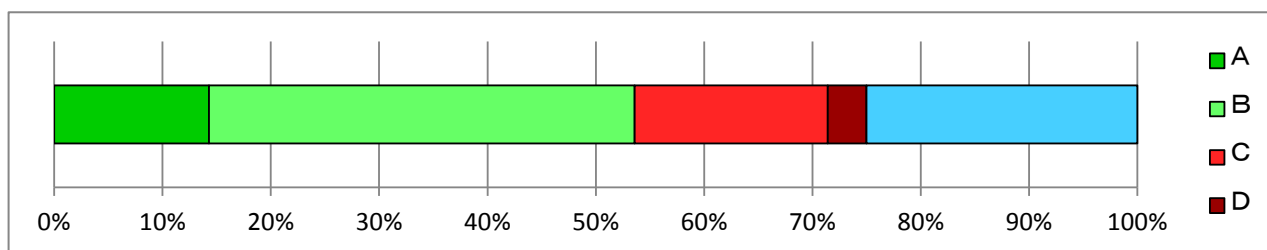


3 水源環境の保全・再生に係る団体間でのネットワークが構築できているか

(1) 市民事業交流会について

番号	評価	コメント
01	E	交流したい団体と独自に交流している。指定日のために日程を設けて交流しなさいはおかしい。事業遂行に追われ交流会に参加できないのが実情。参加の有無が水源環境の保全・再生活動の良否とする公開プレゼンチェックに使われるのは我慢ならない
02	A	—
03	D	交流会にこられた他団体が、実際にどのような活動をしているのかを詳しく知ることができていない。交流会でそれぞれの活動についていつどこで何をどのようにやっているのかというプレゼンを行なうべきだと考えています。
04	C	活動展を通じて新規加入者の問い合わせはありますが加入には至っておりません。他団体と交流は未定で、この夏休みに向けて選択したい。
05	E	まだ参加していない。
06	B	近隣の他の団体のメンバーとの情報交換などを行える機会として有用だと思います。ただし、具体的に新しい関係が構築できてはおりません。
07	B	市民に直接接することで私たちの活動に興味持ってもらえる。
08	E	現状では、会の活動において他の団体との交流、連携の必要性がないことから、参加する機会もなく殆ど利用していない。
09	B	活動内容が同じ団体と知り合いになることが出来たため、今後は交流を深めていきたい
10	B	—
11	E	—
12	E	参加したことありません。日曜日実施が多く会の活動日と重なることが多いです。
13	E	参加していない為
14	C	他の団体との連携は考えていないため、交流会はあまり役立たない。チェーンソーの技術研修や伐木技術の現場研修などを実施していただきたい。
15	C	平成26年度は横浜駅そごう前で、限られたスペースでのプレゼンとワークショップの開設だった。一般市民の方々が見えたがPR効果は、ホームページアクセスや問い合わせは無いのが実情で、期待できない様にした。だが、同業の活動団体を知ることが出来たのは良かった。できれば、事業内容が似通った団体を集めた交流会の企画を期待したい。
16	E	まだ参加したことがありません。
17	B	いくつかの団体の方と名刺交換して情報交換できた。これまで通りの交流会も良いが、どこかの団体のイベントにみんな参加してみるのも良いのではないかなと思う。
18	A	制度としては非常にいいと思います。
19	B	他の団体との交流は増加している
20	B	河川整備関係団体が少ないため交流は少ないが、「日本の竹ファンクラブ」との共同作業や森林整備団体のイベントへ参加等を実施した。
21	B	NPO法人が市民の理解を得るのに良き機会である。毎年若干名の入会有り。
22	B	活動場所が近い団体と顔見知りになり、話合うことも出来た
23	B	参加できないことが多かったので、評価できない。
24	A	交流会において各団体の活動状況、運営方法、悩み等情報交換が出来有意義です。
25	C	発表時間が長く負担が大きい。他団体や一般の来場者と、思ったほどの交流はない。
26	B	—
27	A	概ね満足している
28	C	情報交換に不可欠なメールアドレスの交換ができていない。

回答	団体数
A	4
B	11
C	5
D	1
E	7
計	28



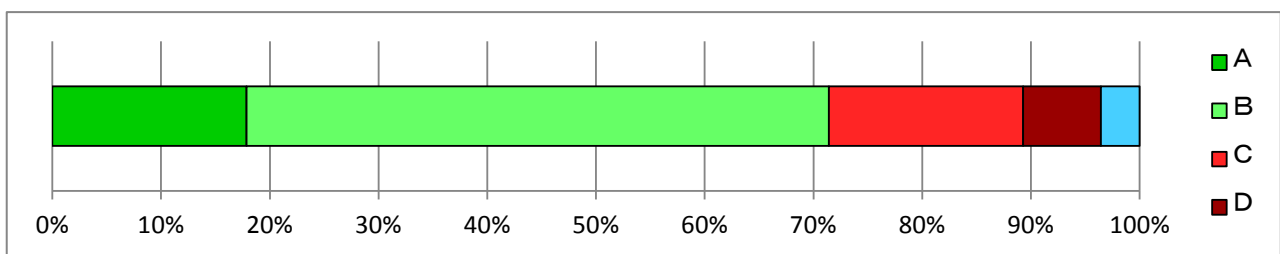


3 水源環境の保全・再生に係る団体間でのネットワークが構築できているか

(2) 公開プレゼンテーションについて

番号	評価	コメント
01	E	参加者は事業をやりきった満足感のみならず次年度の課題を抱え複雑な思いで出席している。故に当日の発表を今後の交流、ネットワークの足掛かりとして今後の活動に向けた心地良い空気感を演出する物であって欲しい。選考委員の先生方は活動の腰を折るようなはじめとも取れる質問は控え、交付決定は文書にて行い、専門性を生かした考察を添えてほしい。
02	A	—
03	D	公開プレゼンテーションは、その比重の9割が選考会要素となっているため、それぞれの団体に精神的な余裕もなく、この場でのネットワーク構築にはほとんど役に立っていないと思います。
04	B	他の団体の発表内容で、連携を図りたい団体とはその場で話し合いをしている。
05	B	色々な活動団体があり関心を持った。
06	B	既に、顔なじみの団体のメンバーとの交流を深める効果や、新規のメンバーとの自己紹介の場になっており、有用に活用しております。
07	B	一日はつらいが仕方ないかな？
08	B	他団体の発表には参考となる点多々あり、当会のこれからの活動に活かしていきたい。
09	B	他の団体の発表を聞き、参考になる活動内容について意見を聞くなどしてネットワークの構築を進めていきたい
10	B	選考委員の方に事業把握を一次審査の段階で公開質問としていただきたい。 2次審査で不適とするのであれば、どの部分が不適になるかを、今後は説明責任を審査員に要求します。
11	B	他団体様がどのような活動をされ、どのような課題を抱えていらっしゃるのかがわかるので、良い機会だと感じた。団体の特徴なども知るきっかけとなるので、連携のキッカケも作ることができる。
12	B	各区分ごとに実施し半日位で行ってほしい。
13	C	会話は交わしますが、事業交流という流れにはなっていません。
14	B	他の団体の活動報告を聞くことは参考になる。
15	A	平成26年度の公開プレゼン各参加団体の事業内容を知る良い機会だった。 幾つかの団体とコネクションが出来て、交流することが出来たので、今後とも継続して貰いたい。
16	C	ネットワークを作るという目的はあると思いますが、全員の発表を丸一日かけて聞くというのは、建設的でない時間のように感じました。
17	B	水源地域で活動する団体が多いので、横浜ではなく厚木や足柄上地域などでの開催も考えていただきたい。
18	A	緊張してしましますが、非常にわかりやすくていいと思います。
19	B	他の団体のプレゼンを拝見することはとても有意義です
20	C	公開プレゼンの1団体の発表時間が短すぎる、予算内容を理解して頂くには活動内容を良く判った上で判断して欲しいため。 発表を2日に分けて、審査結果は後日連絡でも可と思われます。
21	D	反省点は、事務的な参加になってしまっている。
22	B	各団体は環境問題の専門性が高いので勉強になる
23	B	公開プレゼンテーションを通して、活動に興味を持って下さった方が、新たに会員として加わり、アクティブに活動して下さることに感謝している。
24	A	他の団体の発表を聞き、技術的なこと、安全に関する事柄はネットワーク構築に活用している。
25	C	同じような活動の団体はなく、交流などはあまりない。
26	C	パワーポイント主流で資料作成に難渋 抜き打ち現地確認で適正評価で来るのでは、と思われる
27	A	他団体の活動や取り組みを知る良い機会となっている
28	B	現状ではやむを得ない。

回答	団体数
A	5
B	15
C	5
D	2
E	1
計	28

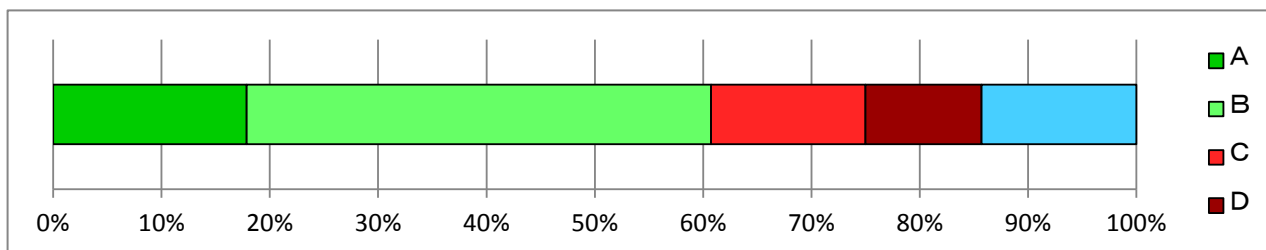


3 水源環境の保全・再生に係る団体間でのネットワークが構築できているか

(3) 県ホームページのイベント情報・活動支援情報等について

番号	評価	コメント
01	C	あくまで活動団体が主体で発信すべき。団体のHPを列記し、通信員を公募、各団体を回り1日体験の感想をつなげることにより、外側からの客観性が得られる
02	A	—
03	D	申し訳ありませんが、県のホームページによってネットワークが構築されることはほとんどないと考えています。せっかくのホームページなので、もっと有効に使えるような仕組みにみんなで改善する必要はあると思います。
04	B	団体交流選択の参考にはしている。
05	E	多忙のためまだ見ていないが、活用したいと考えている。
06	B	今後、活用していきたいと思います。
07	C	県のホームページはいろいろな項目が掲載されているため、自分の必要な項目を検索しても必要な項目に到達できない。
08	B	現状の活動を維持していくのに精一杯であるが、その中でもいろいろな情報は参考となり、利用していきたいと思う。
09	B	今後は一層んお活用を進めていきたい
10	C	支援団体の中間報告を精査するより、HPにより最新の情報開示を望みます。又、今までに情報提供した成果、問い合わせや、イベント参加状況など評価できる情報も、公開すべきかと思ひます。残念ながら当団体には県HPの情報で入会した方はいません。何か良い手段はないですか。
11	A	イベント情報の掲載は広報手段の拡大につながるので、大いに活用させて頂きたい。
12	B	今後活用していきたい。
13	E	特にありません。
14	B	広報の一環として活用している。
15	C	活動に必要な事項は発信していただいているとの認識ですが、参照型になっているのであれば、メールによる情報開示案内が欲しい。 県のホームページに掲載されている内容は幅が広くて分かり難い。
16	A	—
17	B	市民団体の紹介に協力いただいていると思う。しかし、市民団体の紹介（ご紹介しています！水源環境を守る市民団体）では25年度が最新情報になっているようだ。
18	A	まだ支援を受け始めたばかりでよくわかりませんが、制度としては非常にいいと思ひます。
19	B	有意義に活用しています
20	D	26年度は「補助金団体」の内容が更新されてなかった、補助金団体決定後早急に更新して頂きたい。
21	D	年に数回程度は把握している。
22	B	今後もっと活用していきたい
23	E	今まで、意識していなかったなので、今後は活用する方向で考えたい。
24	B	あまり利用していないが今後は積極的に活用する
25	E	行政を通じた情報提供できるのはありがたい。
26	A	なし
27	B	水源環境の保全・再生活動への取り組みに、意欲的な民間企業と活動団体との架け橋的な支援も充実させてほしい。
28	B	現状では止むを得ない。

回答	団体数
A	5
B	12
C	4
D	3
E	4
計	28



3 水源環境の保全・再生に係る団体間でのネットワークが構築できているか

(4) ネットワークの構築やその他の支援として必要なもの（補助金の交付以外の支援）

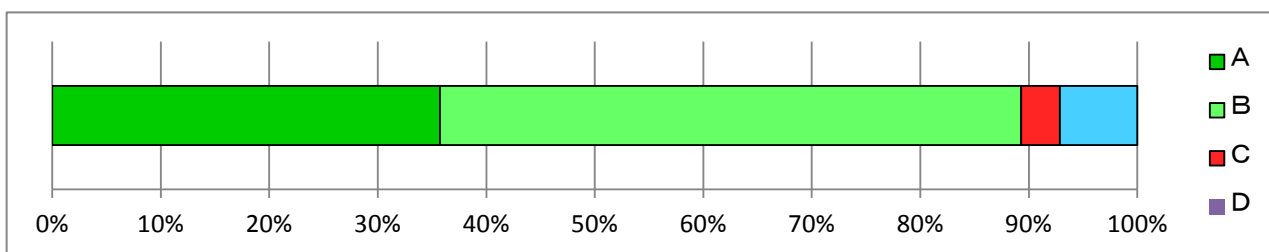
番号	コメント
01	ネットワークは情報交換のみならず、共同行動による成果の数値化、課題の共有化により広く情報を発信し、課題解決に向けた提言を行うことであり、森林地域の共通課題としての獣被害対策としての森林整備はネットワーク以外にはなし得ない。県は行政、民間団体とのネットワーク支援としての会議費、印刷費、通信費 報告書作成費、事務局員アルバイト賃金等の事務局経費、の支援をすることによりネットワークの構築を支援してほしい。 水土保全機能を補完する中山間地の水田耕作市民団体にも市民事業支援の輪を広げることにより、多くの都市住民が参加することは当会のみならず、谷戸田の米作り市民グループが感じている。米作りに不可欠な灌漑用水、土砂の運ぶ豊かな土壌は参加者が森の恩恵として常に感じているものである。荒廃水田の畑地化が進む中で森、水田を活動地とする市民グループにも道を開けてほしいものだ。
02	—
03	こんな業務が増えることがいいことか悪いことかは別として、水源環境保全課として、ここの団体とここの団体は連携した方がいいのではとか、この研究機関と連携してみてもいいのではとか、この研究者と連携してみてもいいのではとか、推薦や斡旋をいただけたら、もっとネットワーク構築がどの団体もしやすくなるのではないかと思います。補助金交付の他団体の活動内容や活動状況については、水源環境保全課がいちばん広い眼で把握されていると思います。ネットワーク構築による連携こそが自立へつながると考えていますので、その辺の情報提供をもっと積極的にいただけるといいと思います。
04	1. 新聞掲載(神奈川新聞)等でホームページ以外のPRを検討願(県対応)います。 理由は、誌面の効果もあります。
05	8. 12日にシカ調査の現地視察・見学会を予定しています。 チラシを作成しました。申請時には未定だったため記載していませんでしたが、印刷代、その他の経費を申請金額の中でやりくりしながら入れたいと思います。またそのチラシを県庁に掲示していただくと助かります。
06	神奈川県内で、環境保全に係る活動を行っている市民団体の地域別、目的別などの一覧があればネットワーク構築に有用ではないかという気がします。それぞれ活動の目的が違うので縦割りになってしまうのでしょうか。
07	—
08	特にありません。
09	(補助金交付以外の支援について) 補助金交付団体の中から顕著な実績が認められる団体に対して、県民会議として顕彰する制度を設ける。 顕彰にあたっては、賞金(10万円程度)を交付することも加える。 県民会議という公的な団体による顕彰は社会的な評価につながる。 賞金を設けることにより、団体として活動資金の一部に使用できる。
10	支援団体の連携ネットワーク作りはすすめるべきです。県税だけを使わずに民間支援などを今後活用する為にも必要と思われます。 ただ水源税の0.03パーセント、1千万円程度を市民支援活動金とし、選考会での不適活動とする審査の仕方は問題があると思います。もっと補助支援金を審査員と共に増額要求して、現状の採択団体の活性化をするのも、行政の方の役目ではないでしょうか。 水源税の徴収ですが、里山整備のボランティアをすると免除になるとか、水源税の活用を里山ボランティアにもっと捻出して、多くの市民力を利用、共有化してもらいたい。税を納めてもらうだけが、県のやり方では寂しい限りです。水源税特区指定市・秦野市なんてどうですかね。
11	ネットワークの構築のためにイベントや交流会を企画する際の費用も、別枠で補助して頂きたい。丹沢大山自然再生委員会では、所属する団体様同士の交流のため、それぞれの団体での活動に付随しての企画実施ではなく、交流イベント自体に補助を願いたい。
12	—
13	先述した通り、地域性の強い活動故に、広く広報する事で活動の幅が広がるものではないかもしれませんが。物販などがPR出来る場があれば資金繰りの面で助かります。
14	県主催で安全衛生教育等を実施してもらいたい。
15	環境保全活動の事例を知りたいと思い、ここ数年、県内の環境保全団体の訪問を行っている。 炭焼き窯の内部や外観などの理解は進むものの、間伐材の伐採場所、伐採方法、伐採材の保管方法等、それぞれの団体で違いがあり参考になることも沢山あった。 また、田圃の米づくりに関するノウハウも知りたいと思っているが、米づくりの流儀は色々有る様でなかなかこれといった教材が得られない状況である。 更に、蛍の生育をアシストしたいのだが、蛍の生息場所や地域によっていろいろなやり方が有る様でこれといった教材が得られない状況である。里山の環境保全に関する情報源について、問い合わせ先をご存じならばご教授願いたい。
16	そもそも、ネットワークを無理に構築する必要があるのでしょうか。各団体はそれぞれの活動で忙しく、各団体に参加している個人の気持ちになって考えると、他の団体がやっているプログラムに参加したり話を聞くよりも、自分の団体の活動に時間を割きたいと考えるのが自然だと思います。他の団体がやっている活動を知ることができる場を事務局が用意すること(ウェブに掲載するなど)は大切だと思いますが、無理にネットワークを作ろうとすることには疑問を感じています。 (丹沢自然学校はまだ参加して日が浅いので様子がよくわからず、的外れな回答であれば申し訳ありません。)
17	イベントに向けての効果的な集客の仕方を学びたい。
18	可能かわかりませんが、事業に関する研修や講習、イベントなどの情報があればいただきたいです。
19	—
20	—
21	なし
22	—
23	山づくりはどのようにしていったら良いのかななどの情報などがやり取りできるような、場や聞くことができるような場があるとよい。
24	森林インストラクターとして(公財)かながわトラストみどり財団との関わりの中でネットワーク活動に利用しております。
25	—
26	—
27	—
28	環境保全・再生の実践活動に参加されている関係者が相互信頼の絆で連携し、人とひと・人と自然・自然の生き物との共生の中でこころ癒せる地域づくり・まちづくりのロマンを追い求めながら第二の人生を謳歌したい。 そのために必要な要件を挙げたい。 その1: 活動の理念・ミッションを明確にすること。 その2: 明確になったミッションを関係者が共有すること。 その3: そのために必要なスキルを活用すること。Ex. 広報活動

4 補助期間終了後の活動の見通しは立っているか  
活動が継続的に展開されているか

(1) 中長期的な活動計画があるか（補助終了後の活動計画があるか）

番号	評価	コメント
01	A	獣被害をキーワードとした共生の森づくり実験、広報による市民団体の育成と中間支援をおこなう。地域再生に関する行政への提言と協働の推進。
02	A	—
03	B	活動計画自体は、中長期的なものとしてできていると思う。
04	B	具体的な計画は今の処ありませんが、総会等で今後の対処方について話し合っています。
05	E	現地の状況の把握に努めている段階。様々なプランが出ているが、まだ数年先のことは分からない。
06	B	現在、いつまで観察会を継続するかについての当会内の合意、大学との合意はありませんが、補助金期間中のみ実施してその後、中止というわけではなく、継続を予定しています。
07	C	補助終了したら活動できないと考えています。
08	B	定例の理事会において適時討論し策定している。
09	B	計画について、大まかな方向性は定例会、理事会等で話し合っており共有されている
10	A	自立に向けた6次産業化的な取り組みを、水源の森・里山・里地で展開する方向で計画はしている。
11	E	プログラム未実施のため、見通しを立てられない
12	B	会員でいろいろ計画中である。
13	B	大きく事業を拡げていくつもりもないが、地域に密着して継続していける流れは出来つつあると思う。
14	B	相模原市との協働事業を継続していきたい。
15	B	年間計画を毎年作っている。補助終了後の活動計画も合わせて検討している。
16	B	具体的な計画はありませんが、補助事業に頼った事業計画にはしていないので、将来も活動は継続できると思います。
17	B	現状を維持していくつもりである。
18	B	何となく出来ておりますが、作業現場である公園の方に中長期計画が無いので、短期計画となります。
19	B	会のメンバーが経験を積んで、ある程度の活動見通しを立てられる状況になってきた。
20	A	整備・保全活動が停止すると2・3年で以前のような荒廃した状況になってしまうため継続した活動を計画している。
21	A	常に数年先を見据えた、事業計画を話し合っている。
22	B	里山再生事業として位置付にしているのので、今後も続けていく方針
23	B	大まかな方向性は、毎年総会で話し合っており共有されている。
24	A	中長期的な計画はないが、補助終了も毎年総会は開き活動報告、会計報告、年度計画、予算等決め継続的に活動していく。
25	A	継続を大切にスタッフで共通認識できている。
26	A	4ha以上のエリアを3等分し一個所を2年間伐 現在向こう3年間は活動箇所は確定済み 県森林保全課による追加エリアを線引き済みなので、その後の活動フィールドとしてほぼ確定
27	A	中長期的な活動計画は、現在再検討中です
28	A	

回答	団体数
A	10
B	15
C	1
D	0
E	2
計	28

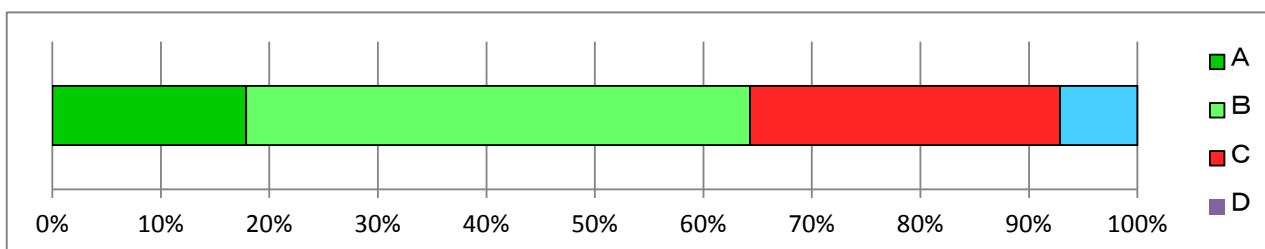


4 補助期間終了後の活動の見通しは立っているか  
活動が継続的に展開されているか

(2) 補助終了後も、活動を継続・発展させていく見通しは立っているか

番号	評価	コメント
01	A	神奈川県民の義務として補助事業を実施、これにこだわらず民間助成金を活用し社会貢献度を高める。
02	A	—
03	C	しかし、その計画を継続、発展させるための財源確保の見通しは立っているとは言いがたく、そこが大きな問題だと考えている。
04	B	今後も活動を継続していくためにはどのような活動資金を得ていくか早急に検討する必要がある。
05	E	まだ数年先のことは分からない。
06	B	当会の自主事業として継続していく見通しは、予算上でも可能です。
07	C	見通しはありません。
08	B	継続できる体制は整っているが、担い手の維持増強については、なお一層の取り組みが必要である。
09	C	会員の高齢化が進んでおり、継続するものの内容の見直しを行う方向で検討することも考えている
10	C	支援金以上に継続における若返りが必須とするが、定期的なハードな活動参加者が確保できていない。
11	E	参加費で賄える体制になっているかどうか、参加者のニーズが途絶えてしまわないか等、不明確な要素があるため見通しを立てられない。
12	B	検討中である。
13	B	炭の販路も広がってきたので、活動費はある程度賄える状況になりつつある。
14	B	相模原市との協働事業を継続していきたい。
15	B	補助終了後の活動継続見通しは立っている。課題は継続できる人材の確保である。現有会員は高齢化しているので若い新規会員の勧誘に心を砕いている。
16	B	経済的には継続できる見通しです。ただし、メンバーの固定化・高齢化の問題が課題としてあります。
17	B	会員の所属する会社で始めたキャンプ場を使って活動を継続し、新たな参加者の掘り起こしにつなげたい。
18	B	何となく出来ておりますが、作業現場である公園の方に中長期計画が無いので、短期計画となります。
19	B	会員のほとんどが継続参加で活動を希望している
20	B	補助金終了となると会計面で大変厳しい状態になるが、委託事業や他の補助金受領活動に努力して継続させて行く計画です。
21	A	広報活動に努め、自主財源を少しでも増やす計画と新規財源の研究をしている。
22	B	活動を継続発展していくのに資金をどうするか検討が必要である
23	C	活動を継続させていくための資金源の検討は不可欠であるが、できていない状況である。
24	A	補助終了後も、森林インストラクターとして技術修得、向上のため継続的に実施して行く。
25	C	人件費の確立した活動として継続を目指したい。
26	C	昨年補助金受給開始前4年間自己負担で実施してきたので継続は可能だが、会員数・参加者数の維持には限界が出ると思われる
27	C	現在、活動自体が転換期を迎えており、将来的な見通しを模索中です
28	A	—

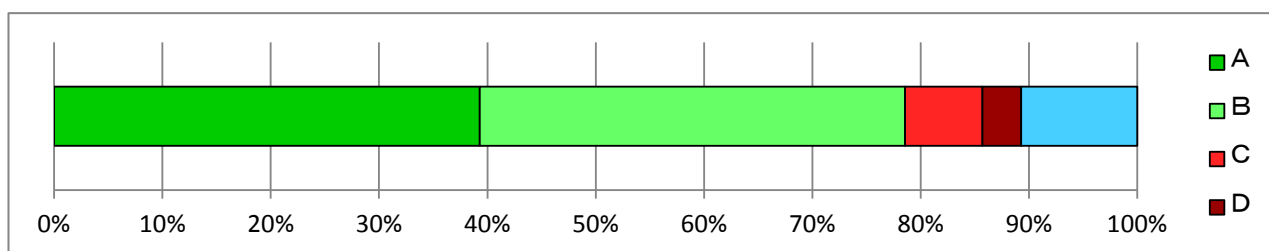
回答	団体数
A	5
B	13
C	8
D	0
E	2
計	28



- 4 補助期間終了後の活動の見通しは立っているか  
 継続的に活動するための資金の見通しは立っているか  
 (3) 会員等からの会費収入は確保できているか

番号	評価	コメント
01	D	森づくり以外の多様な活動展開を更にすすめ、関心のある分野から入会を促進、分野をプロジェクト化し独立して計画、立案、実行ができるようにすることにより会員の定着化を図る。
02	A	—
03	B	それまでほとんど動きのなかった会員入会が、昨年度後半より少しずつ増え、約30名になってきています。このまま増やしていくことができれば、会費収入は、資金源になっていくと思われます。
04	A	会員からの会費収入は100%です。
05	B	森林整備団体として長年活動している。
06	B	当会の予算規模（200万円弱）に対して会費収入は30万円程度ですが、事業費、補助金などで成り立っており、会費の占める比率は低いです。
07	B	概ね出来ている。
08	A	出来ている。
09	A	会費収入は確保できている。
10	A	—
11	E	プログラム未実施のため回答不能
12	A	会員からの会費は確保している。
13	E	会費は炭焼き事業には充当されない為。
14	E	会費収入は事業費の2%未満である。
15	A	会員は30名弱であり、毎年総会時に会費を徴収しているので、確実にできている。
16	A	—
17	A	会費収入は確保できている。しかし、補助金終了後は現状の会費収入では間に合わなくなるので、検討が必要である。
18	B	会を存続する程度の会費は集めております。
19	B	確保出来ている
20	B	会費のほとんどは「活動参加時に受領」形式のため一部未納者がある、高齢者が多いため銀行振込・インターネット利用による徴収は難しい。
21	A	会員の理解度が深く、良好。
22	B	確保出来ているが人数が少ない
23	B	会員からの会費収入は確保できているが、会費についての見直しは必要と感じている。
24	A	会員収入は確保できている。
25	B	継続会員は毎年ある程度は確保できている。新規会員と共に退会者もあり、総合的には大幅は増員になっていない。
26	B	—
27	C	会費収入は得られているが、単発的な収入なので将来的な運営には不安が残っている
28	C	未整備

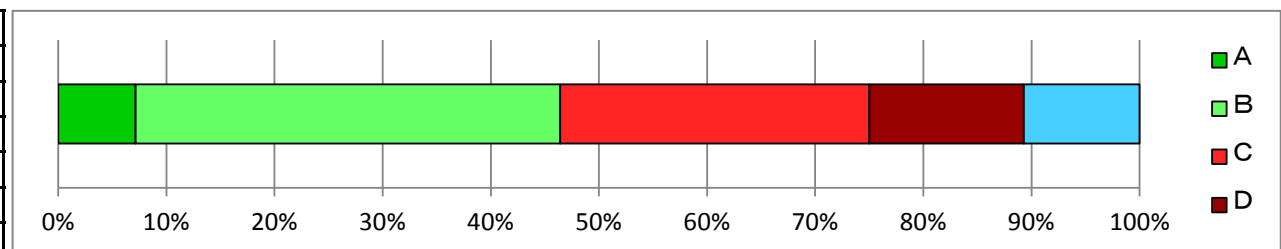
回答	団体数
A	11
B	11
C	2
D	1
E	3
計	28



4 補助期間終了後の活動の見通しは立っているか  
 継続的に活動するための資金の見通しは立っているか  
 (4) 製品の販売等による自主財源の確保はできているか

番号	評価	コメント
01	B	地域からの依頼による間伐、竹林伐採 チップ化による事業収入
02	B	—
03	C	ポストカードや写真作品額装品などを販売する努力はしていますが、ぽんぽんと売れるものでもなく、自主財源確保については検討中です。
04	A	会の理念から製品販売等は一切行っておりません
05	C	以前は木工品を作成し販売していたが、労力の方が多く中止した。整備事業費などで収入がある。
06	B	当会の活動内容から製品販売収入は、そもそも見込んでおりません。
07	C	ありません。
08	B	十分ではないので、今まで以上にいろいろな機会を捉え、品目など工夫し財源を確保していきたい。
09	B	イベント等を通して作品等の販売お行っているが、販売数量の増加が課題である
10	B	—
11	E	今のところ、当団体での製品販売は予定していない
12	B	機会あるごとにPRしているが、リピーターの確保に課題がある。
13	B	大口の販路は出来たが、供給能力が課題でもある
14	E	製品販売は考えていない。
15	B	炭製品の販売と地域住民へのサービス報酬で自立できる見通しがある。課題は製品製造にかかる労力がボランティアの域を逸脱しているとの声が聞こえていることにある。
16	A	—
17	C	現状ではできていないが、タダで手に入る木の枝を使ったクラフトや木の苗木の販売を計画している。過去に苗木の販売は実施しており、ある程度の売上があった。
18	C	県立公園内のため難しいです。
19	B	販路も拡大してきている
20	D	活動内容から「製品販売」は難しい、検討して製品化出来るものがあったとしても「小額」と思われます。
21	B	毎年の予算分は確保しているが、中々増える傾向にはならない。
22	D	製品の販売は今のところ行っていない
23	C	わずかであるが、間伐材を使った会員さんの製品を販売することがあるが、わずかな資金である。
24	E	製品の販売等を行っていないが、イベント等では材料費のみで自主財源とはしていない。
25	D	鎌倉市、公園協会と検討中である。
26	D	元々活動目的は、手入れの行き届かない人工林の荒廃を少しでも止めることであるが、間伐材の有効利用などの活動で自立を、としているものの、その分本来の目的達成にブレーキを掛けること必定 至る所放置林の惨状を見るにつけ、間伐急務の現状は変わらない
27	C	販売に向けて準備中
28	C	確立されていない

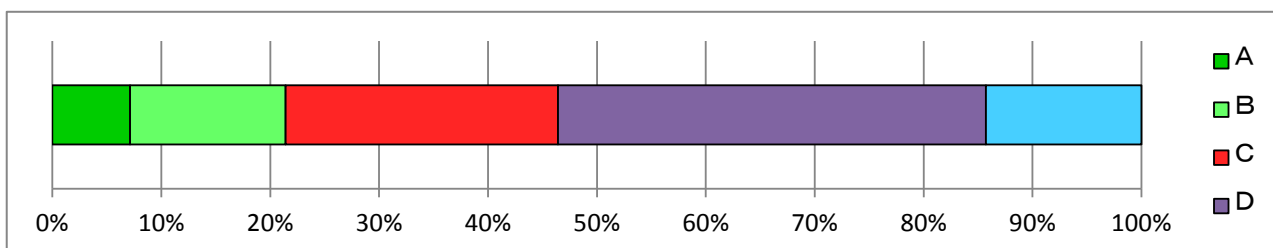
回答	団体数
A	2
B	11
C	8
D	4
E	3
計	28



- 4 補助期間終了後の活動の見通しは立っているか  
 継続的に活動するための資金の見通しは立っているか  
 (5) イベント等を通じた寄付金の確保はできているか

番号	評価	コメント
01	D	東日本大震災では谷戸田オーナーの同意を得て圃場の一部を支援田んぼとしオコメ支援をしたことのみ
02	D	当団体はそういった活動はしていません。
03	A	イベントの際には、会場等に問題がない限りは寄付金を集めており、けっして大きな額ではないが、地道な財源確保にはつながっていると思います。
04	A	行政・学校の主催に参加し寄付行為は一切行っておりません。
05	D	今の所設定していない。
06	B	確保できております。
07	C	なし
08	C	殆どない現状であるが、いろいろな方法があることを貴講習会で学んだのでこれから取り組んでいきたい。
09	D	現状では会員による個人的な寄付だけである
10	D	自主的社会的貢献の一環で活動をしているので、寄付金をもらう発想がなく、寄付を募ったことはない。(水源の森整備において)
11	E	寄付金は集めていない
12	B	イベント等で年間5万円くらい集めている。
13	E	寄付は基本的に集めていない。
14	C	寄付金は事業費の2%程度であり、今後も増加させていきたい。
15	D	寄付金を集めるイベントはしていない。過去、近隣のイベントに参加したが、販売品である炭製品(木炭・竹炭・木酢液・竹酢液)は殆ど売れないので、参加費の回収が出来ず赤字の為やめた。
16	C	寄付はほとんど受けていません。
17	D	イベントの際に寄付金箱を置いてみようと考えている。
18	C	県立公園内のため難しいです。
19	B	出来てきている
20	D	今後の活動で「寄付金」の収入に努力するが、現在はほとんど無い。
21	B	イベント規模により差はあるが、ほぼ予定金額を確保している。
22	D	達成出来ていない(やり方が分からない)
23	E	—
24	E	イベント時の寄付金は頂いていない。
25	D	年2回の収穫祭にて頒布金収入はある。
26	D	現見通しでは活動参加者の自己負担へ回帰
27	C	イベントなどを通じた寄付金は確保できているが、流動的なものなので、将来的な運営には結びついていない
28	C	確保されていない

回答	団体数
A	2
B	4
C	7
D	11
E	4
計	28

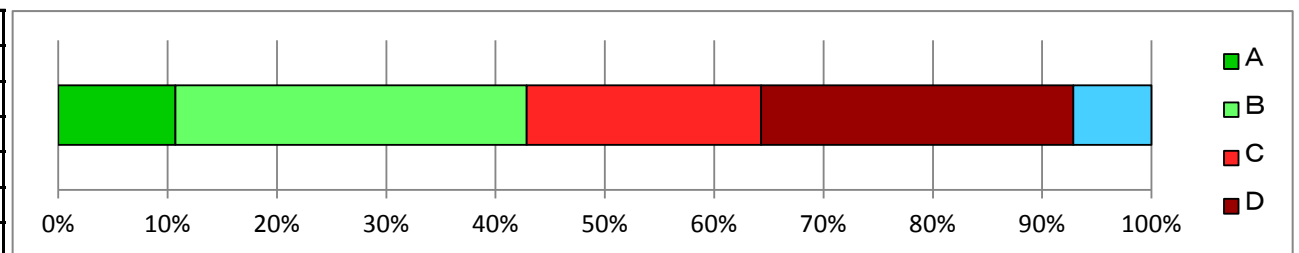




4 補助期間終了後の活動の見通しは立っているか  
 継続的に活動するための資金の見通しは立っているか  
 (6) 他の補助金の活用による財源の確保はできているか

番号	評価	コメント
01	B	本年度は事務局員体調不良により不可。例年は100~150万の確保。
02	D	当団体はそういった活動はしていません。
03	B	いくつかの他の財団等からの助成金獲得はできてはいるものの、人件費をまかなえるような助成ではないため、この要素をもっと綿密につめていく必要はあると考えています。
04	B	今後は、他の補助金活用を検討する必要がある。
05	B	他の補助金を活用しているが、申請・報告書の作成に大変な労力がかかり、出来る者への負担が大きい。
06	B	当会の本事業（生きもの観察会）ではありませんが、他の「夏休み子ども環境体験教室」事業では企業の補助金を27年度受給して事業実施しております。本事業につきましても、補助申請を行っており、来年度以降も行う予定です。
07	C	いろいろ調べていますが出来ていません。
08	B	現在利用しているものはないが、必要の都度、補助金を利用している。
09	C	他の補助金の活用について必要があれば検討するが、現時点では考えていない
10	B	—
11	D	取り組み中である
12	E	他の補助について考えていない。
13	E	他の補助金は活用していない。
14	A	相模原市との協働事業を実施している。
15	D	以前はみどり財団からの支援を受けていたが、今はこの補助金だけである。
16	B	—
17	D	今後、他の補助金を探していくつもりである。
18	C	県立公園内のため難しいです。
19	C	特には無い
20	D	現在無し
21	A	企業、自治体ともできている。
22	C	市民事業支援補助金以外なし。今後検討したい
23	D	—
24	C	今後、必要の都度考える必要がある。
25	A	活動に負担のない発展に結びつく助成金への見直しを行っている。
26	D	今後の検討課題
27	D	他の補助金は活用できていない
28	B	個人の寄付金等により賄っている

回答	団体数
A	3
B	9
C	6
D	8
E	2
計	28

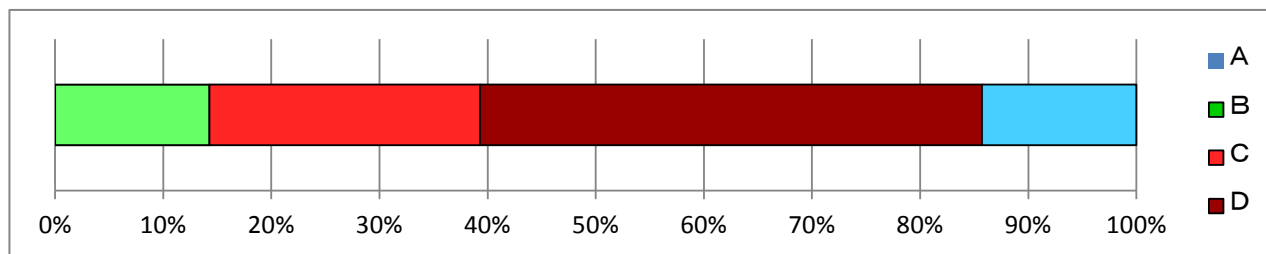


4 補助期間終了後の活動の見通しは立っているか  
 継続的に活動するための資金の見通しは立っているか

(7) 企業のCSR活動等と連携した活動資金の確保はできているか

番号	評価	コメント
01	C	CSRは3年間継続した。企業のCSR活動の方向性が見えず担当者の意欲向上が見えないことから中止。CSRを先導する力に欠けていたと反省
02	D	当団体はそういった活動はしていません。
03	C	日産自動車（株）のCSR活動等連携はいくつか築くところまではできていますが、連携による資金確保には至っていません。
04	C	土地所有者との連携を検討中であります。 理由は、相続等の理由から交渉に時間が必要です。
05	D	今の所設定していない。
06	B	当会全体としてのCSR活動からの補助金を受け受けておりますが、本事業（生きもの観察会）では、受けておりません。
07	C	いまのところありません。
08	B	現在1社について実施中であり、今後も行政とも協働し進めていきたい。
09	D	具体的な検討はなされていない
10	D	謝礼は頂くが、その分ぐらいは参加者に還元している。 (昼食の提供、収穫物の配布など)
11	D	団体として実績と信頼を積み重ねてから
12	D	今後確保していきたい。
13	E	企業との連携は考えていない。
14	E	費用対効果を考えると考えられない。
15	D	当会の事業内容と連携できそうな企業を検討したいが見いだせていない。仲介していただくことが出来るならば大変有り難い。
16	B	—
17	D	今後、探していくつもりである。
18	C	県立公園内のため難しいです。
19	C	特には無い
20	D	継続申請しているが、採用なし
21	B	特定した企業の継続がほしいが、まだそこまでになっていないが、前進している。
22	C	具体的な行動までは至っていない
23	E	—
24	E	森林インストラクターとしてネットワーク活動を通じて各企業と連携して活動に参加している。
25	D	自然環境復元協会と連携して実施予定である。
26	D	今後の検討課題
27	D	出来ていない
28	D	確保されていない

回答	団体数
A	0
B	4
C	7
D	13
E	4
計	28



5 自由意見

番号	コメント
01	市民事業参加団体の底辺を広げるために 市民が森づくり団体を結成する際、森林所有者との契約、境界線、現場までの入山経路等の壁に突き当たる。荒廃農地の増大に伴い農業委員会が地主との契約に第三者として立ち会うように、事業の後方支援主体を各市町村とし所管に専従者を置き、退職した臨時職員の給与を手当てしてほしい。市町村が連絡会を創設しネットワークの後方支援をすることにより、底辺は確実に広がる。（秦野市は協定林制度により多くの個性ある市民グループが生まれた経緯がある）又森林率の高い過疎自治体は県の都市住民を呼び込むことにより交流事業が活発化する可能性も考えられる
02	—
03	いちおう意見等はすべてアンケートの中で書かせていただいたので、ここでは特にありません。
04	特にありません
05	—
06	県の補助金を受けることで、いわば、「お墨付き」の効果で、活動の信頼性を増していることは実感しております。 環境教育の啓発活動として、現在は、小学生に限定しておりますが、このような広い対象とした活動と並行して、中学生、高校生など生徒全体あるいは、クラブ活動の生徒対象により専門的な活動へも活動対象を広げていきたいと考えております。
07	—
08	*長いスパンに亘る継続した活動が必要な森林保全活動の深刻な悩みは高齢化やモチベーションの維持が難しい等による担い手不足である。体験講座などによる意識の普及啓発を進展させ、実行者としての担い手を養成する機会を開設し、積極的に増強していくことが肝要と考えます。そのための資金の支援をお願いしたい。 *非営利活動の中でいろいろ工夫しながら自主財源の確保に努めているが、毎年僅かな留保金しか得られない状況では、補助金に頼らざるを得ないことも発生してきます。しかし、自主財源が乏しい中では、負担分を捻出するのも難しく限度があり尻つぼみとなります。実施面で難しいと思いますが、負担なしの全額補助の枠組みを検討してほしい。
09	当該支援制度を活用できる団体は、一定のきちんとした組織の団体でないと、難しいと思われる。 特に初めて申請にあたり担当者は一定の財務・経理の知識がないと申請にあたっては苦労すると思う。 つまり、継続し申請できる団体は、一定のレベル（優良団体）に達した団体に限られてくることとなります。 これは、 ①申請団体が大幅に増えることは今後も難しいと考えます。 ②逆に言うと交付団体として認められたことは、公に一定の評価がされたという位置づけが大事です。 補助金に公的資金が使われる以上、自ら限界があることを関係者がお互いに理解した上で活用することが大事ですね。
10	民間からの支援の受け入れ態勢として、県を窓口とした各団体をまとめたネットワーク組織づくりを提言します。「丹沢のしずくちゃんネット」。オリンピック時には、県民による丹沢の水保全を世界に紹介しませんか。
11	—
12	—
13	炭焼きの活動は1年ごとの周期で活動計画がまとまりますが、森林保全体験等のプログラムを立案する時にはジャストオンタイムで補助金の申請が出来たりする仕組みがあると使いやすいと思います。 市民活動においてはアイデアが湧いた時にこそアクションを起こしたくなるものだし、きっかけが人との出会いであったりすると、年度毎の申請ではどうしても動きが遅くなってしまうと考えるからです。フレキシブルな対応を行政が行えるように対応ご検討下さい。
14	特になし

番号	コメント
15	<p>当会では環境保全事業の補助金をみどり財団から頂いていたが、もりみず市民事業に切り替えてきた。平成28年は継続するとして、平成29年からの5年間の活動内容も見通しがある。</p> <p>しかしながら、みどり財団からの補助金は炭焼き窯がある場所を中心の地域事業での交付だったが、もりみず市民事業では対象地域が決められている場所まで出向かなければならない不便さがあった。</p> <p>地元で環境保全作業を継続させたいが、補助金を受ける作業と地元作業の両方を行う結果となり、ボランティア活動の稼働日が年間100日を超える状況になっている。</p> <p>対象地域外の地元で活動するための補助金を受けられる道を開けないものか、ご教授願いたい。</p>
16	
17	他の補助金や連携できそうな企業のCSR活動の情報をいただきたい。（自分でも探しますが・・・。）
18	—
19	—
20	<p>NPO法人等の大きな団体は別だと思いますが、小さな団体やまだ基盤が確立していない団体では『補助金頼り』で活動をしています、ところがこの補助金は「年度終了して審査完了後に支給」となっているため、一年間の資金は「借入金」で運営する形になっています。</p> <p>希望としては「補助金一括前払い、年度終了後清算」して欲しいが、いろいろの問題が有ると思われまますので、「案」として、前半分を「中間報告」で審査し、補助金対象実施分を「仮支給」して年度実施後に残り分を含め「本清算」とする事を検討して頂きたいと思えます。</p> <p>* 現在は「資機材費の仮払い」はありますが、事業補助金についてお願いします。</p>
21	目標設定を明確にし、市民の理解を得る活動と安定的自主財源の事業立ち上げを目指しています。
22	<p>会員の入れ替えがここ3年程度続くでしょうが、安定的運営をするために人材の発掘育成にも努めたい。</p> <p>資金経済情勢から鑑みると、難しい運営局面が続いたが、昨今の会員数の回復傾向きざしにより、その英知を結集して、よりよい環境整備貢献が出来始め、整備面積の増加や他団体との協働が増えたりする動きが出ています。</p>
23	<p>会の自立については、毎年審査の中でも話題になり、大切であるとは思う。</p> <p>しかし、ボランティア団体で限られた時間の中で、作業もし製品を作るといったことの困難さは年を経るごとに感じている。間伐材の製品を売買して財源を得るほど、高度な作品は作ることにはプロでないので大変難しい。</p> <p>また、間伐材の流通についても考えていくことはしているが、多くの時間が必要で、やはり仕事を持っている方々に多くの負担がかかる。</p> <p>自立についての情報もお知らせしていただけるとよいと思う。考えてもなかなか実現は困難。</p>
24	森のなかま2012の会が発足して3年が経ち、資金が一番必要な時にタイムリーに補助をして頂き、資機材、物品、を購入できたことは、誠に感謝しております。補助終了後も継続的に活動し森林インストラクターとして技術修得、向上に努めていきます。
25	助成金対象を緩やかなものにしていただけると嬉しいです。発表、交流会の参加など、活動が忙しく人手不足の中 負担が大きかったです。
26	<p>昨今地方創生との掛け声から“自伐林業”も語られているが、一部の人たちに特化した林業再生では限界があり、国土の山を守るための予算を増額すべき、と思われる</p> <p>また我々一般人が山に関心を深めプロでなくても山を守る活動が積極的にできるよう、支援制度としても補助金を継続・発展していただきたい</p>
27	—
28	<p>①本制度を活用させていただいている最大の理由は、行政との連携による信頼性の確保にあります。</p> <p>②年金生活者が中心になっていることから、力量の範囲内で地道に地域の環境保全・再生に寄与しつつ次世代を担う若者に継承させながら第二の人生を謳歌しています。</p> <p>③その求心力・軸となるのが助成制度のブランドです。</p> <p>④本制度の一層のご発展をご祈念申し上げます。</p>

平成27年度 補助対象団体一覧表

番号	団体名	申請部門	森林	間伐材	河川・地下水	その他	普及啓発	調査研究	資機材	計
01	(特非)伊勢原森林里山研究会	高度化	461,000						230,000	691,000
02	(特非)ウッドボイス	高度化		1,000,000						1,000,000
03	(特非)海の森・山の森事務局	定着 高度化					400,000	500,000		900,000
04	海老名里山づくりボランティア山仕事の会	高度化	237,000							237,000
05	小田原山盛の会	高度化				540,000			82,000	622,000
06	(特非)神奈川県環境学習リーダー会	高度化					110,000			110,000
07	(特非)かながわ森林インストラクターの会	定着 高度化				125,000	105,000			230,000
08	(特非)相模原こもれび	高度化	486,000				153,000		167,000	806,000
09	(特非)四季の森里山研究会	高度化					50,000			50,000
10	(特非)四十八瀬川自然村	高度化	750,000				300,000			1,050,000
11	自然保護団体 Bond-Making Action	定着					84,000			84,000
12	(特非)しのくぼ	高度化	400,000							400,000
13	(特非)篠原の里	高度化	60,000							60,000
14	(特非)自遊クラブ	高度化	104,000							104,000
15	湘南二宮・ふるさと炭焼き会	高度化	173,000	332,000					80,000	585,000
16	(特非)丹沢自然学校	高度化					80,000			80,000
17	丹沢森林環境研究所	高度化					100,000			100,000
18	戸川森づくりの仲間	定着	296,000							296,000
19	なかい里山研究会	高度化	281,000				16,000			297,000
20	中津川仙台下クラブ	高度化			478,000				132,000	610,000
21	(特非)日本の竹ファンクラブ	高度化	438,000				280,000			718,000
22	(特非)ファームパーク湘南	高度化	200,000							200,000
23	森のなかま	高度化	43,000							43,000
24	森のなかま2012	定着	260,000							260,000
25	(特非)山崎・谷戸の会	高度化					107,000			107,000
26	湯河原森のなかま	高度化	475,000							475,000
27	(特非)よこはま里山研究所	高度化	158,000	744,000						902,000
28	(特非)楽竹会	高度化					220,000			220,000